

企画展示〈天王山式土器からみた東日本の弥生社会〉関連講演会
2020年10月11日

東日本における弥生後期の交流

古津八幡山遺跡（秋葉区）： 東から見下ろす
1987年～現在，発掘調査を重ねる

石川 日出志（明治大学文学部）

©新潟市教育委員会

【話の内容】

新潟市には、秋葉区**古津八幡山遺跡**と西区**六地山遺跡**という新潟県域における**弥生時代後期(紀元後1～3世紀頃)**を代表し、なおかつ弥生時代の東日本を考える際に重要な遺跡があります。



国史跡:古津八幡山遺跡

現在も、そして過去にも、新潟県域は、西の北陸、北の庄内・秋田方面、東の会津・福島方面、南の長野・群馬両県域など周辺地域との往来が盛んです。とくに**弥生時代後期**は、**東西南北諸地域と人・物資・情報の往来が著しいこと**が分かっています。

今から2000年近い昔の人々の躍動の様子を、各地の遺跡から発見された資料をとおしてご紹介しましょう。

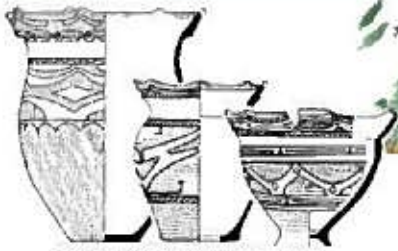
【話の順番】

1. 天王山式土器とは？
2. 新潟県域の弥生時代後期の遺跡
3. 弥生時代「越後」の躍動

国史跡：
古津八幡山遺跡



©新潟市教育委員会



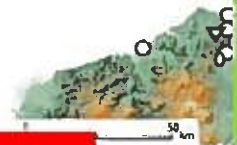
天王山式(東北系)土器(福島県天王山遺跡)



北陸系(越前式)土器(石川県越前遺跡)



- 北陸系
- 東北系(天王山式)
- ▽ 北海道系
- 長野系

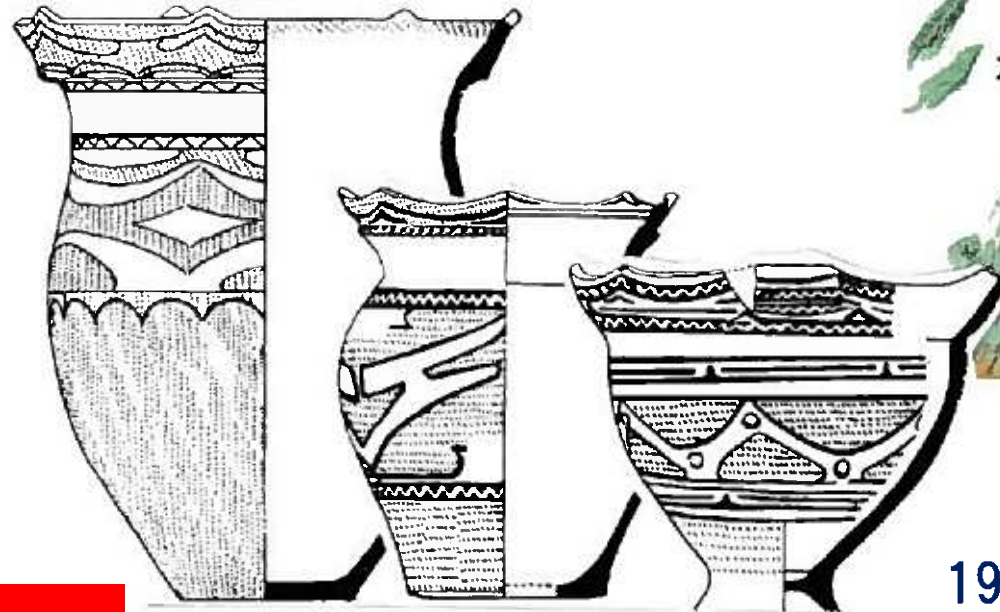


東西南北の土器(=)

1

1. 天王山式土器とは

- ・ 新潟県では、下越と中越の遺跡で発見される

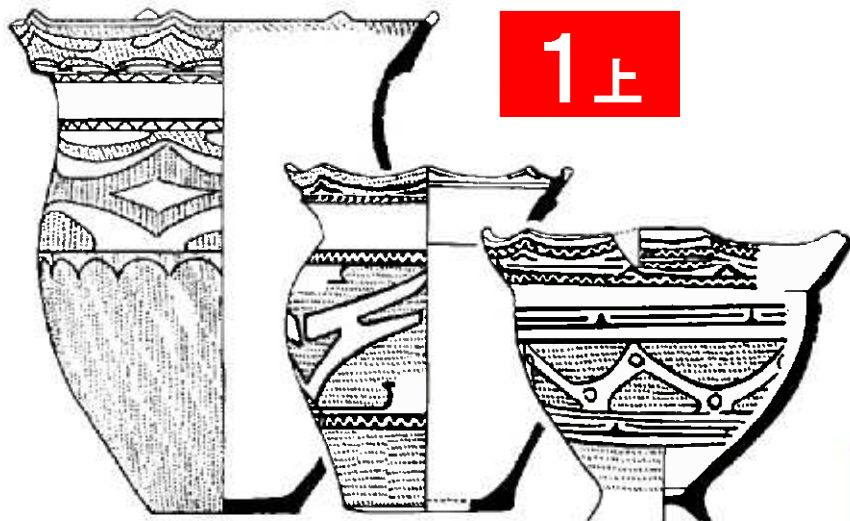


© ground interface

- ・ 福島県白河市の天王山遺跡で1950年に発掘された資料が基準

1上

天王山式(東北系)土器(福島県天王山遺跡)
『弥生式土器集成 資料編』1, 1958



(『弥生式土器集成 資料編』1, 1958)

1. 天王山式土器とは

不思議な特徴

→ 「考古学者を惑わす土器型式」

交互刺突文

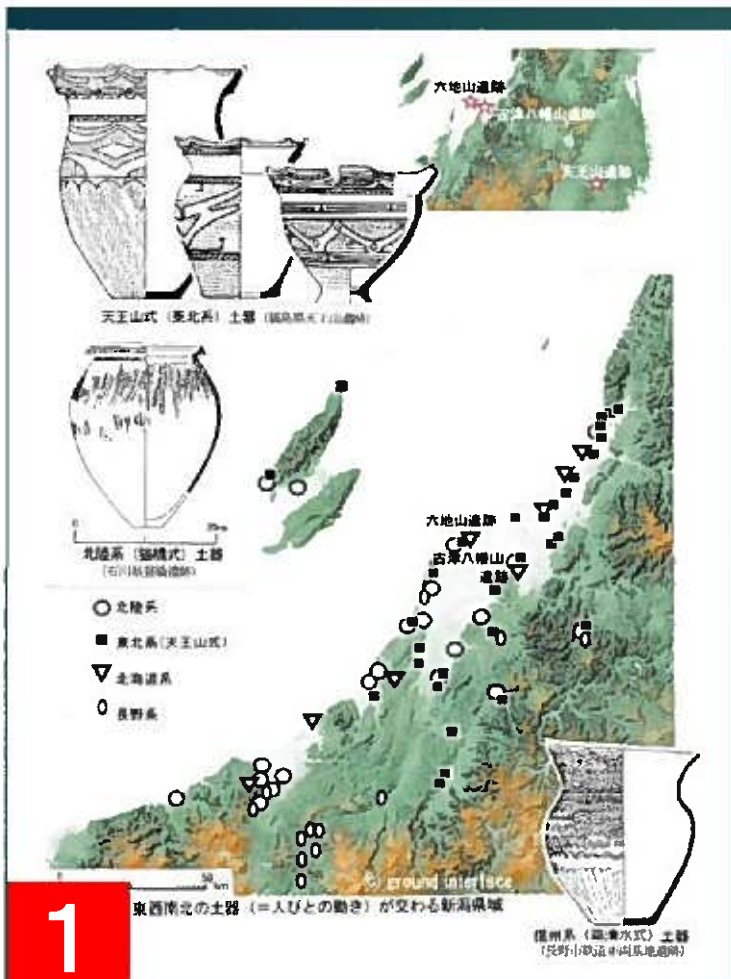
口縁の突起

工字文



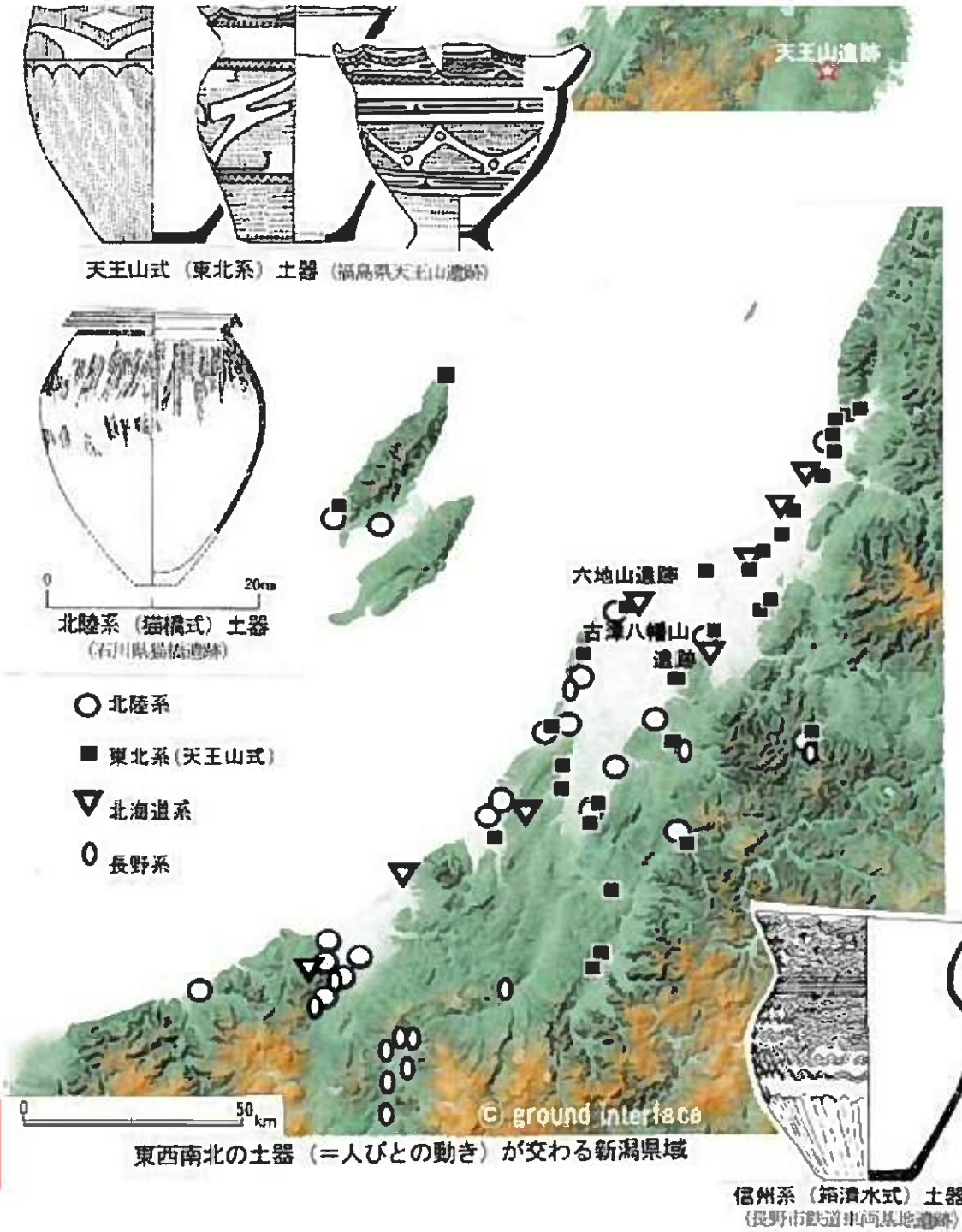
(『日本原始美術』3, 1964, 講談社)

弥生時代後期！



東西南北の土器 (=人びとの動き) が交わる新潟県域

1

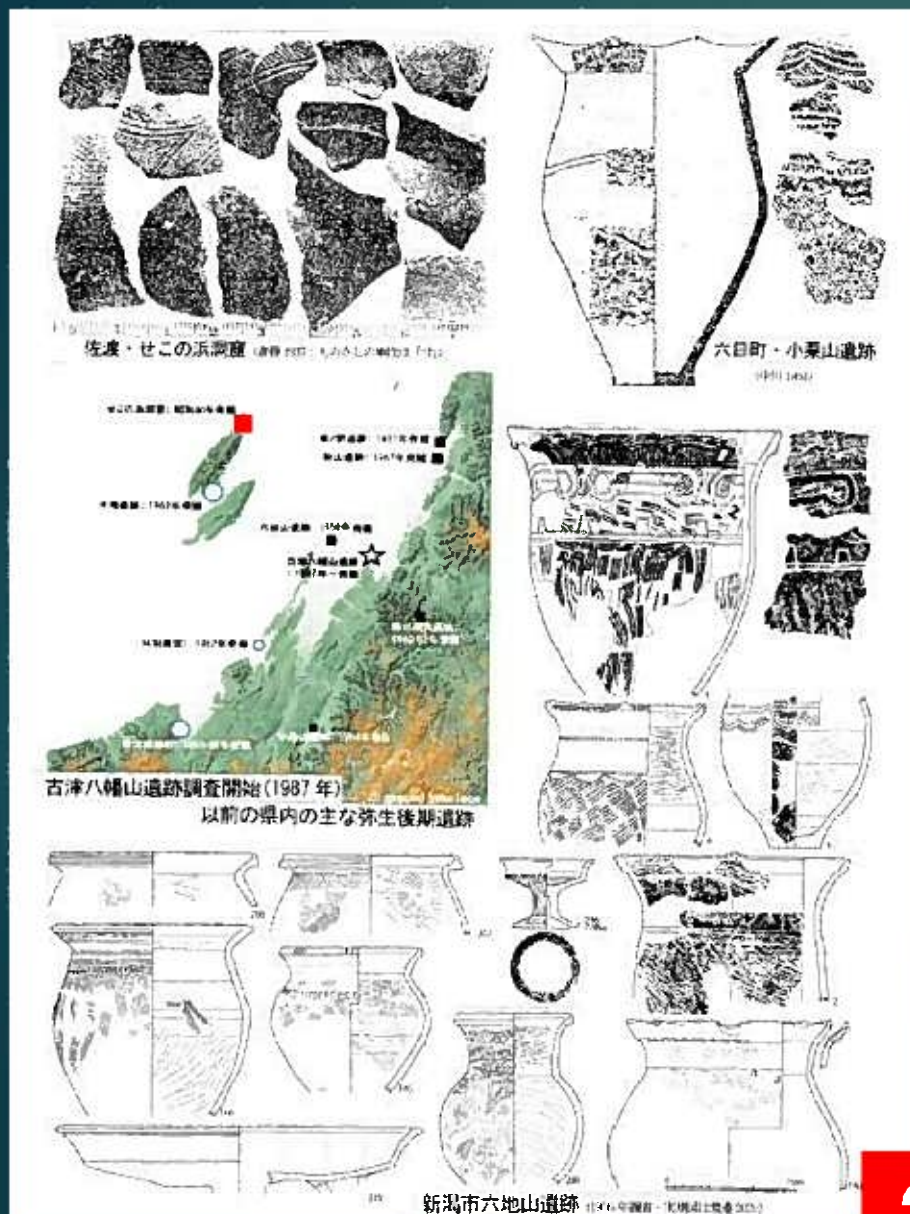


2. 新潟県域の弥生後期の遺跡

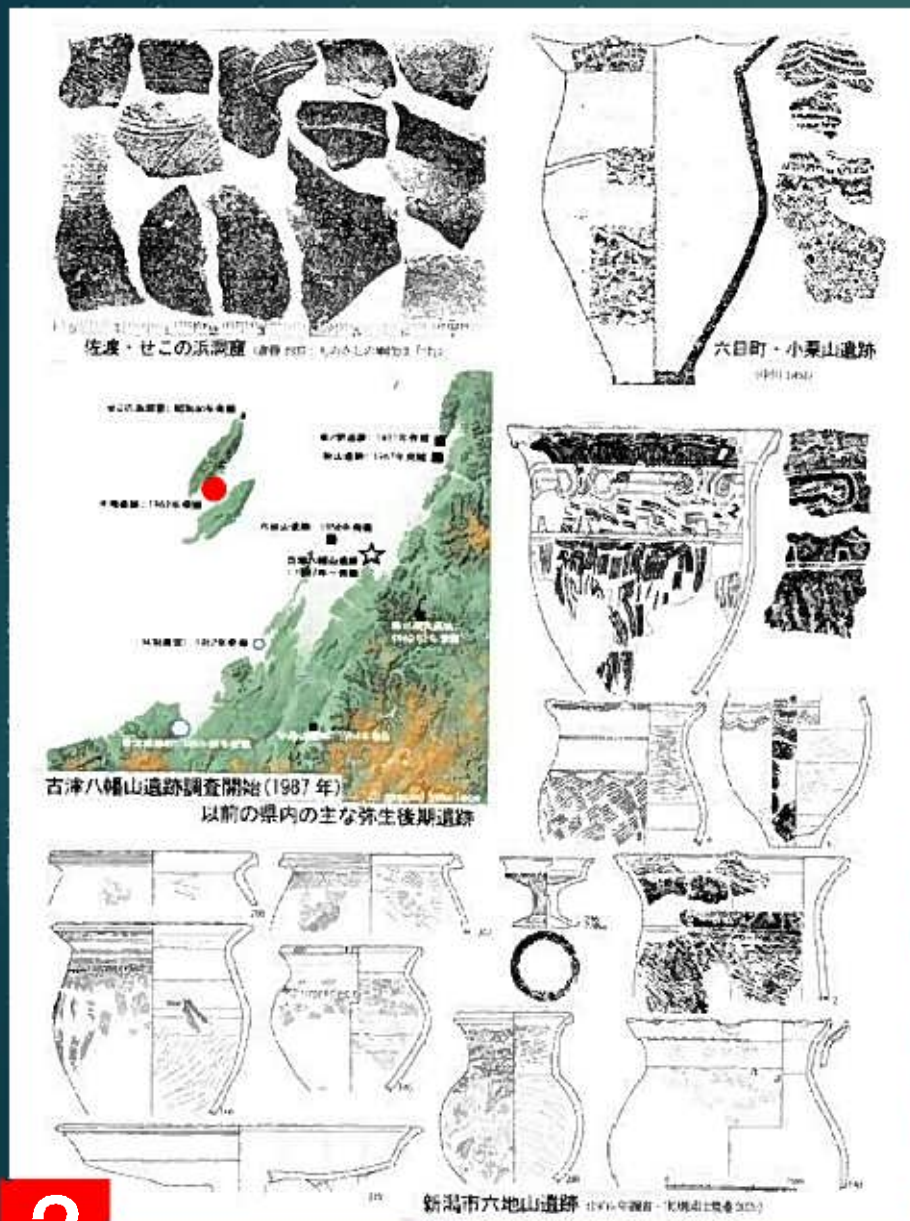
新潟の弥生後期の様子が
具体的に分かるようになったのは
意外に最近のこと。

1987年～古津八幡山遺跡
などの調査の蓄積が大きい。

【戦前】



2. 新潟県域の弥生後期の遺跡

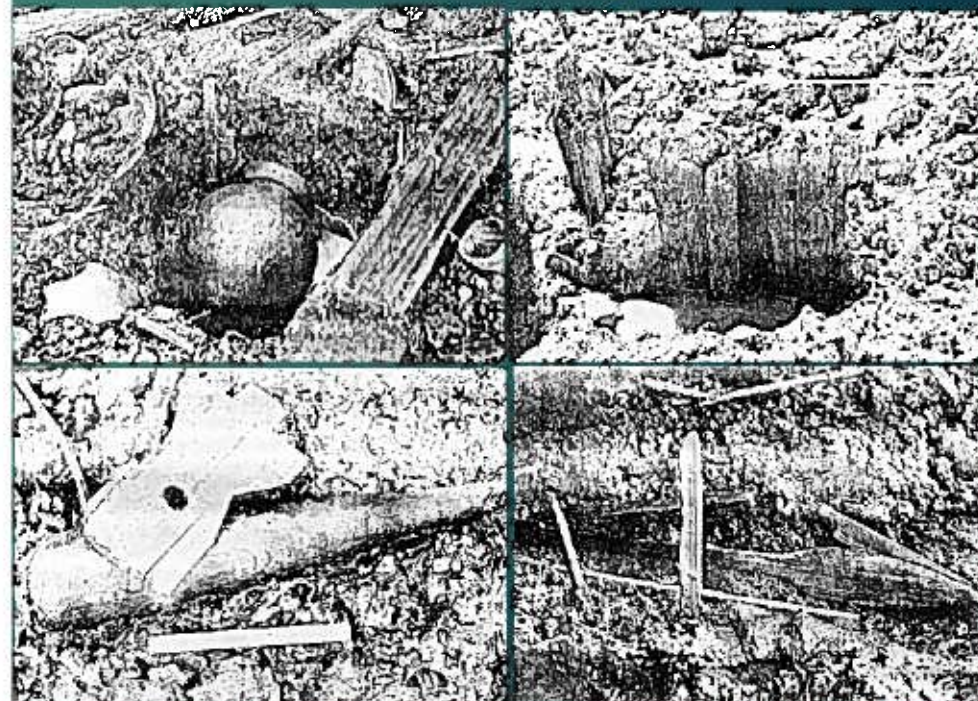


【戦後】 弥生時代の調査が注目される！

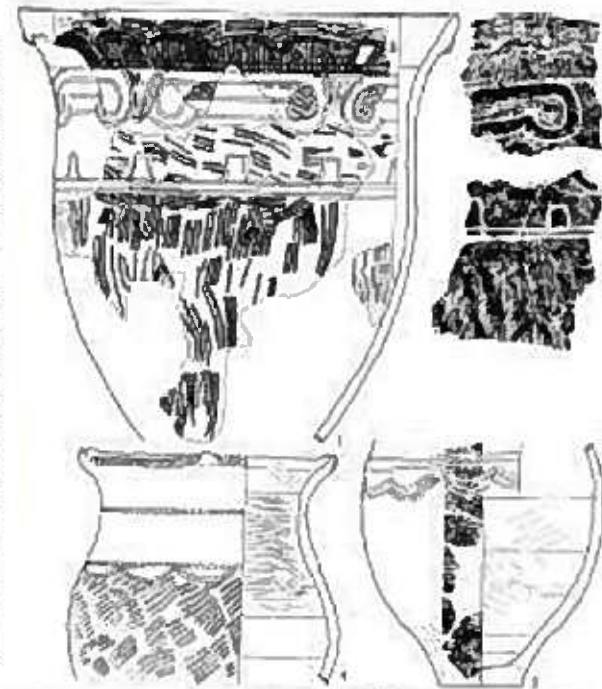
1947-50年: 静岡市登呂遺跡調査
→ 弥生時代村落の景観がつかめる



1952年: 佐渡・千種遺跡の発掘調査



『千種』1953)



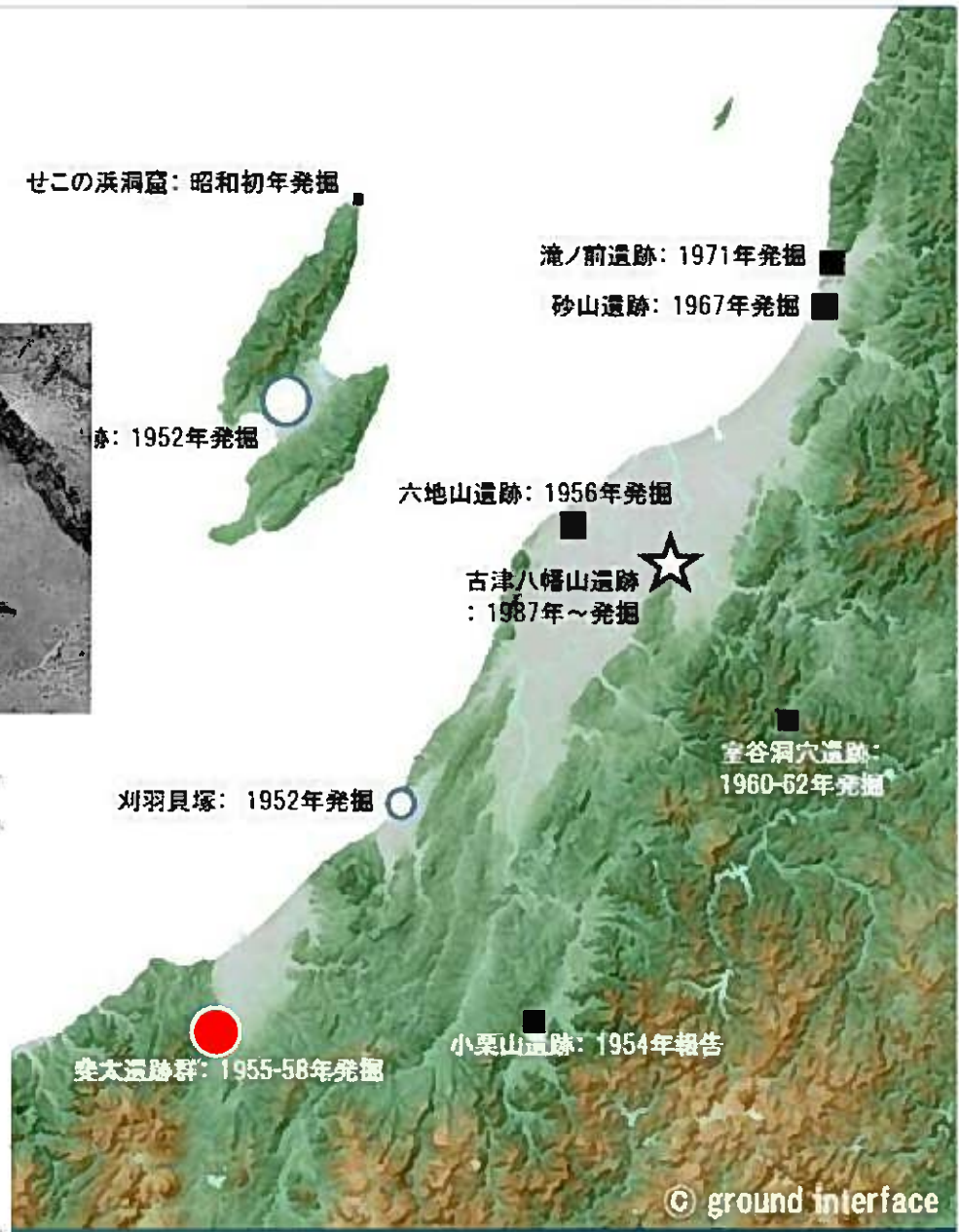
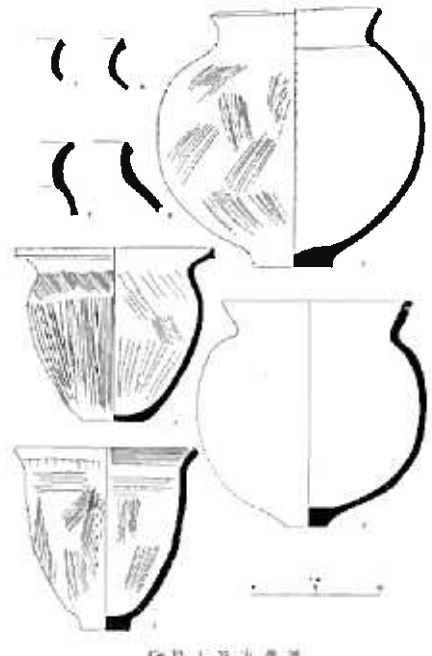
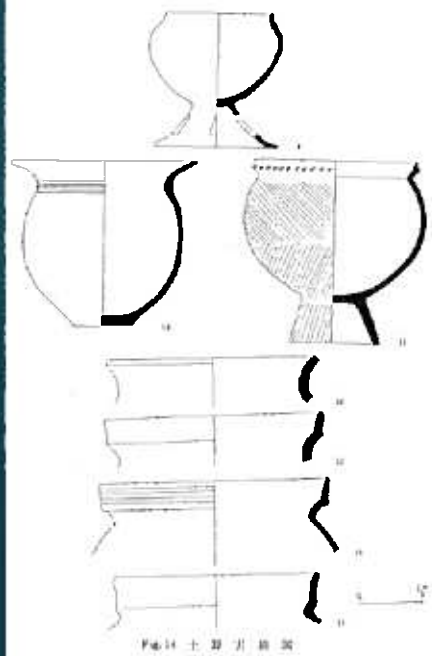
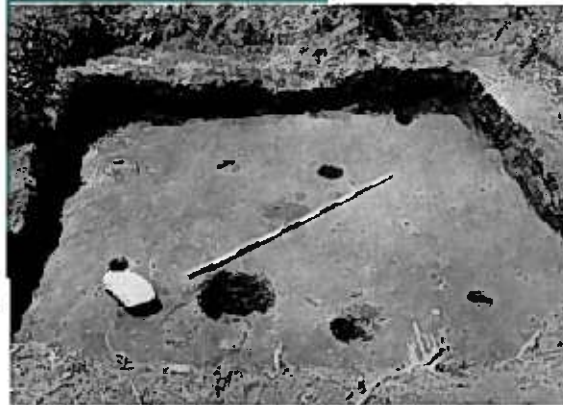
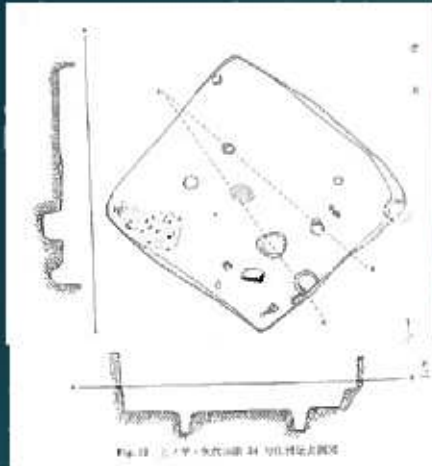
(『上代文化』30, 1960)

1956年 西区曾和の 六地山遺跡 の発掘調査



新潟市六地山遺跡 (1956年調査・丸岡宗土蔵蔵 2020)

1955-58年： 新井市 斐太遺跡群の発掘調査



せこの浜洞窟：昭和初年発掘

滝ノ前遺跡：1971年発掘

砂山遺跡：1967年発掘

跡：1952年発掘

六地山遺跡：1956年発掘

古津八幡山遺跡
：1987年～発掘

室谷洞穴遺跡：
1960-62年発掘

刈羽貝塚：1952年発掘

斐太遺跡群：1955-58年発掘

小栗山遺跡：1954年報告

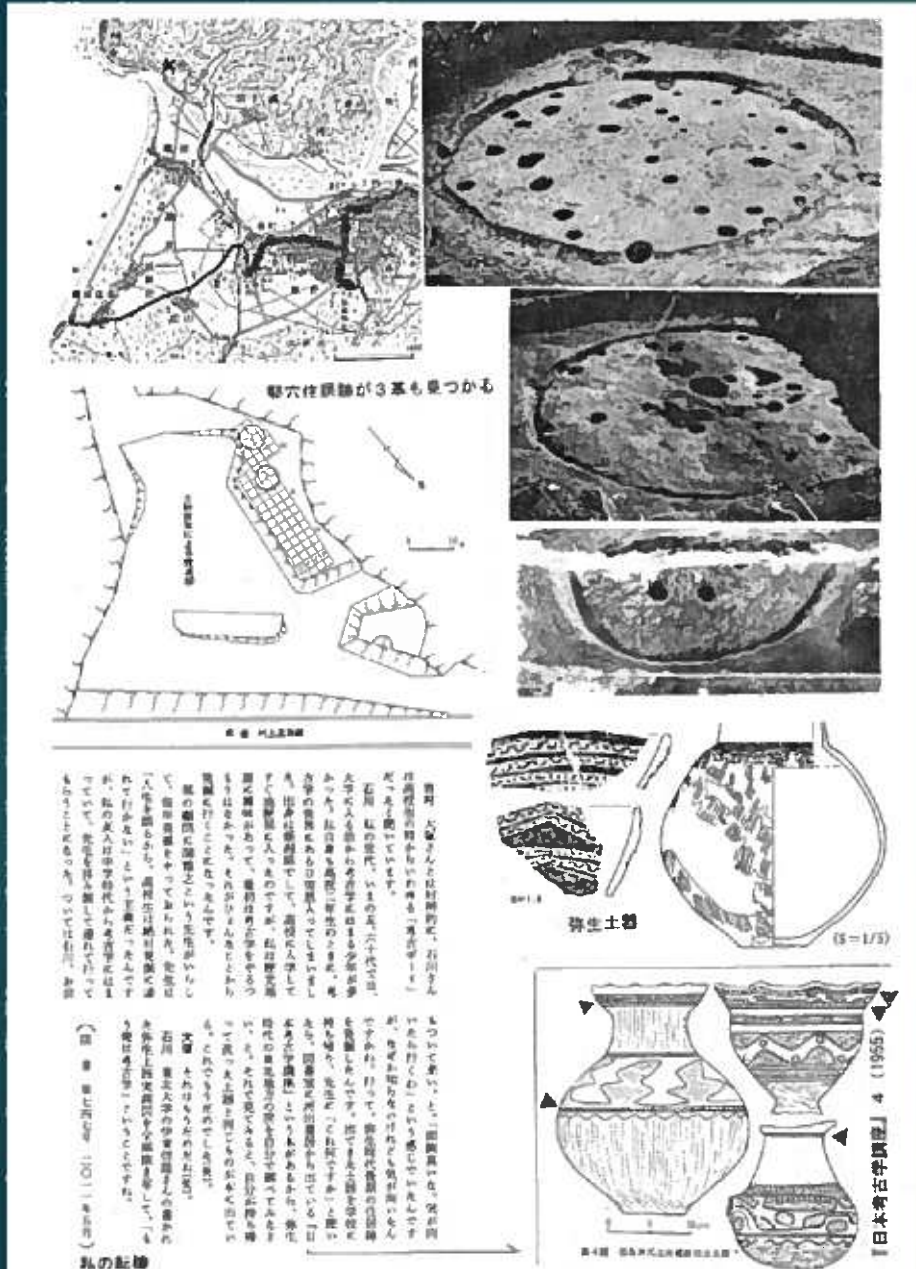
© ground interface

『斐太』1962)

1971年：村上市滝ノ前遺跡の発掘調査

『滝ノ前遺跡』1972

〔図書〕747号, 2011, 岩波書店



第28図 村上市滝ノ前遺跡の竪穴住居群（1971年発掘）：弥生後期前半A D I世紀



1987年～：旧新津市 古津八幡山遺跡の発掘調査 → 弥生時代後期の大規模な高地性集落と判明



東側上空から

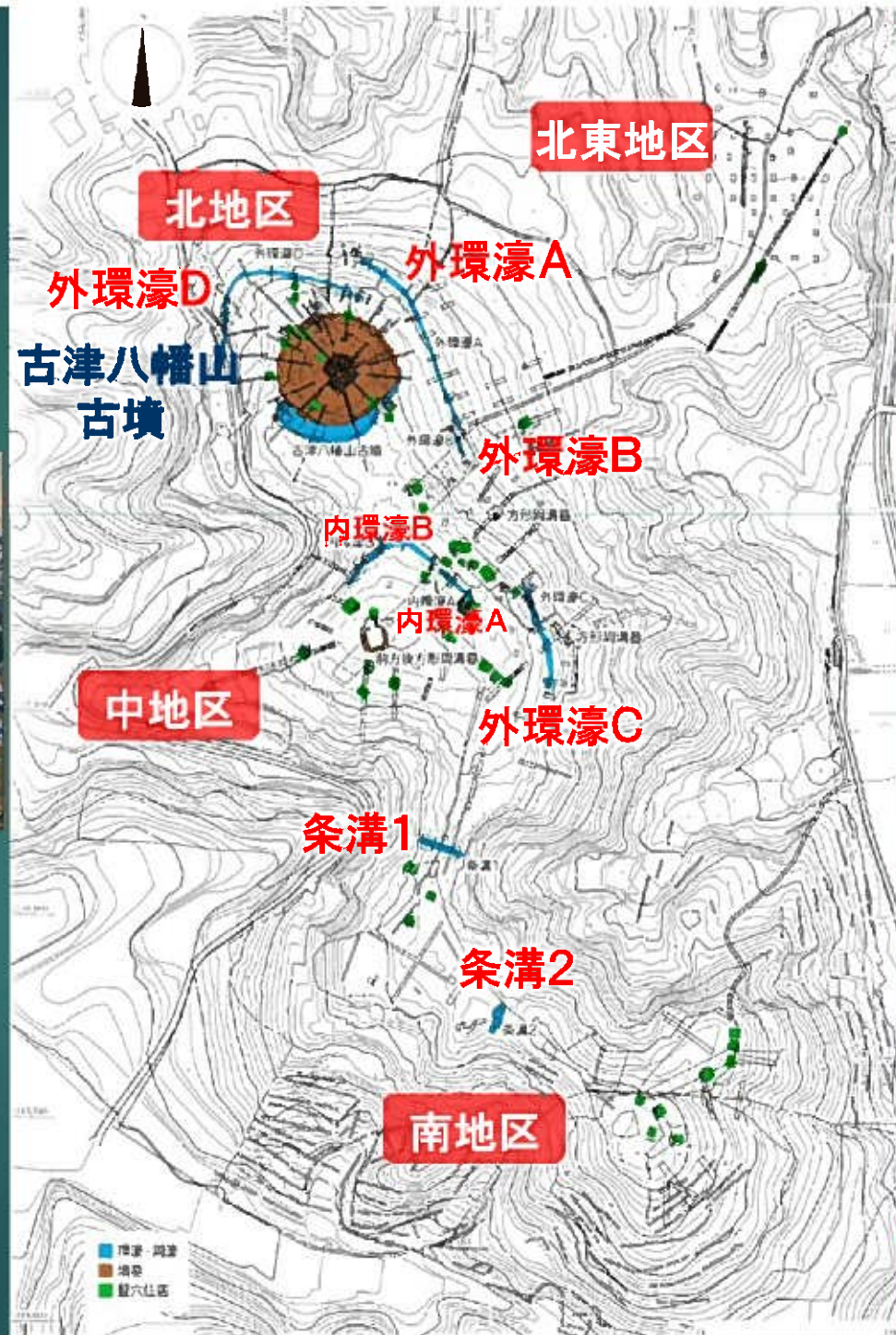
©新潟市教育委員会

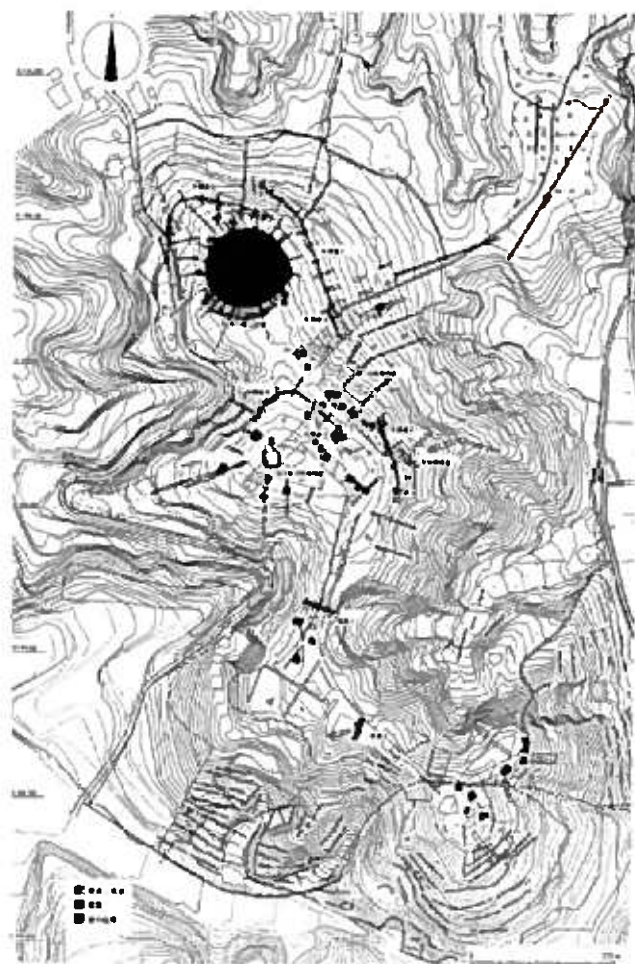
古津八幡山 遺跡の全体図



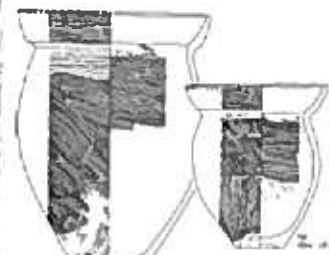
新潟平野
= 標高約5m以下

古津八幡山遺跡
= 標高40~45mの丘陵上

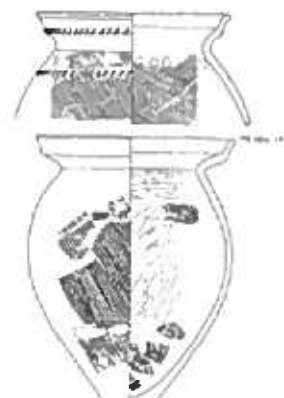




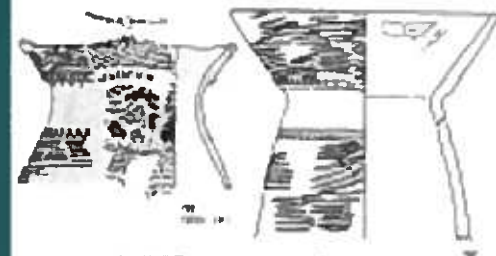
東北系（天王山式）土器



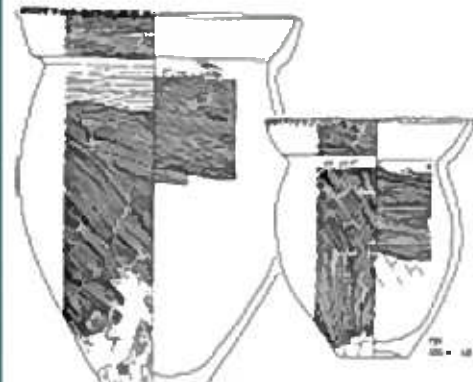
折衷（古津八幡山式）土器



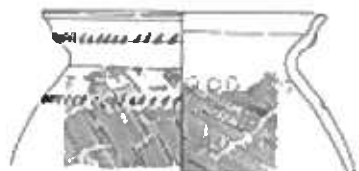
北陸系（猫橋式）土器



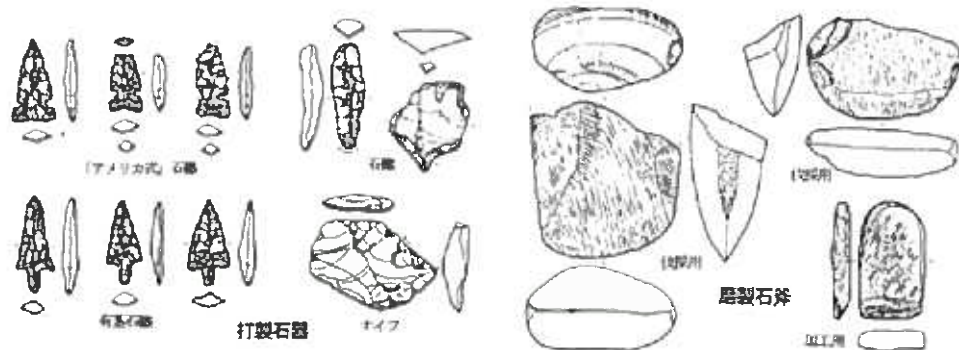
東北系（天王山式）土器



折衷（古津八幡山式）土器



北陸系（猫橋式）土器



新潟市秋葉区古津八幡山遺跡 (2005-2010)



古津八幡山遺跡 第3次調査 北地区 環濠



第14次調査外環濠D



第10次調査 S X 1005



第10次調査 S X 1005



第10次調査 S X 1005

第10次調査 北地区 方形周溝墓

2005(平成15)年に、**国史跡**に指定

【指定理由文書】(抜粋)

1987年からの調査によって、日本海沿岸として最北に位置する弥生時代後期の大規模な高地性の環濠集落や、新潟県最大規模の古津八幡山古墳をはじめとして、弥生時代から古代にかけての複合遺跡であることが判明した。

弥生時代後期後半の大規模な高地性環濠集落であり、新潟平野における弥生時代後期の集落の様相や他地域との交流の実態を示す。

また、この時期、高地性集落が日本海沿岸にも点々と認められるようになり、本遺跡は現在のところ最北に位置し、西日本を中心とした社会の変化の影響が、この地域にも及んでいたことを示している。

このことは、集落の廃絶後、同じ場所に前方後方形周溝墓を経て大型古墳が造営されたこと、この地域が日本海沿岸における古墳分布の北限であることと関連して興味深い。

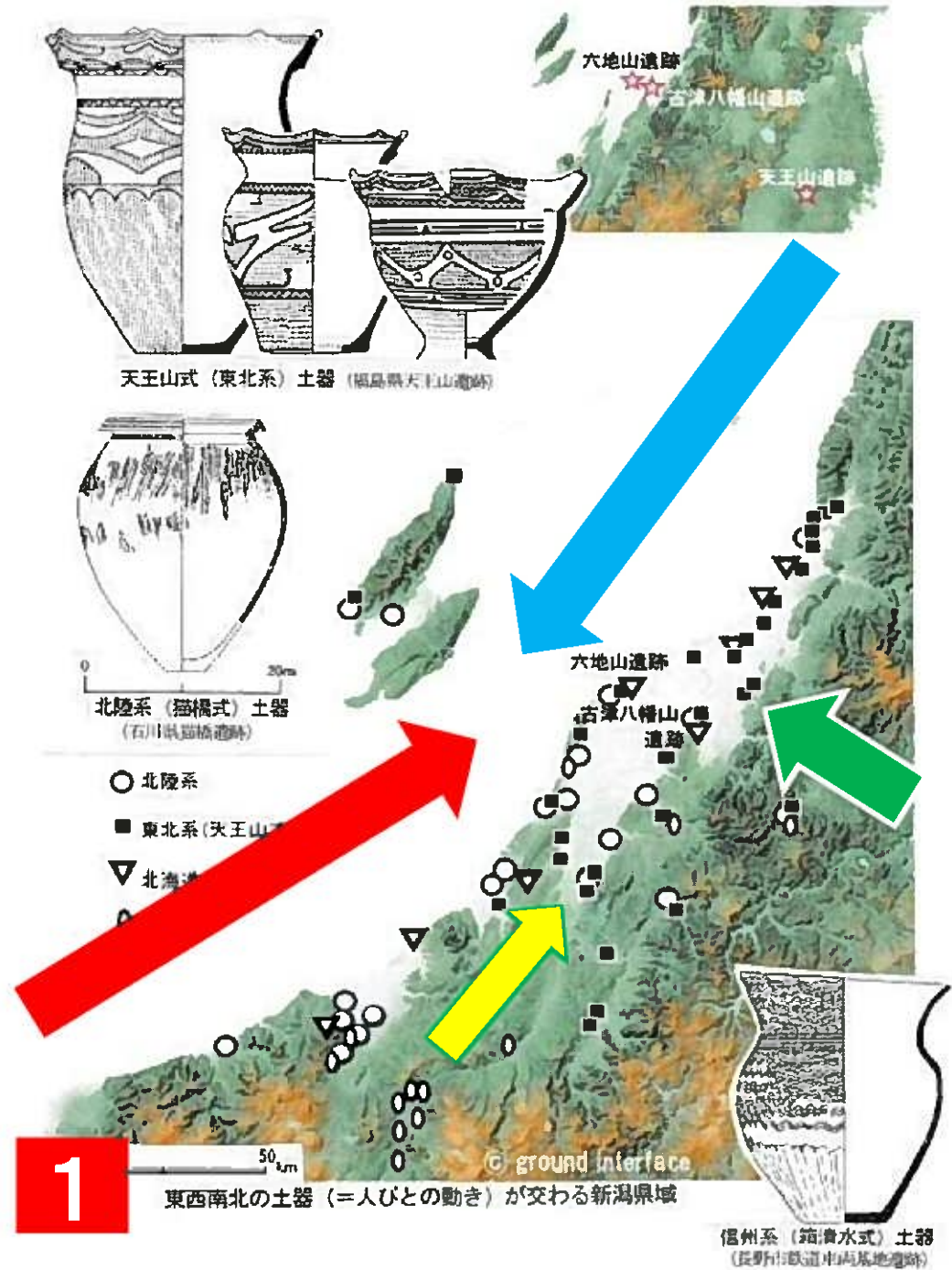
このような本遺跡は、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての北陸地方の社会情勢やその変遷を考えるうえでも、きわめて重要である。

よって史跡に指定し、保護を図ろうとするものである。

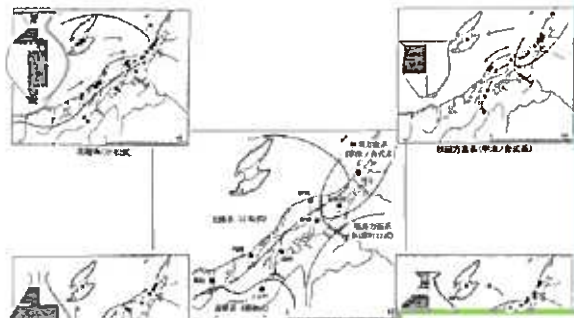
3. 弥生時代「越後」の躍動

弥生時代後期の越後は、
東西南北の諸地域と、密な
上流を重ねた。

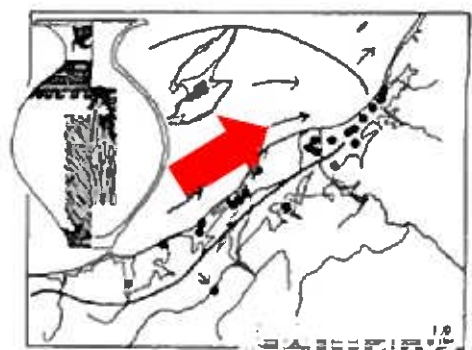
それは、直接には
前段階(中期後半:
BC1世紀後半)の動きが
もとになっている。



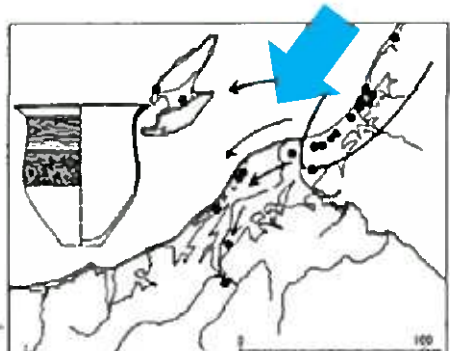
新潟県内で 東西南北の4系統の土器が行き交う



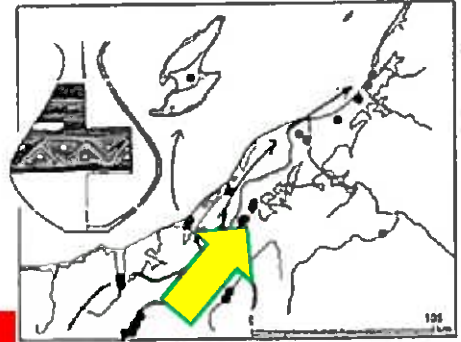
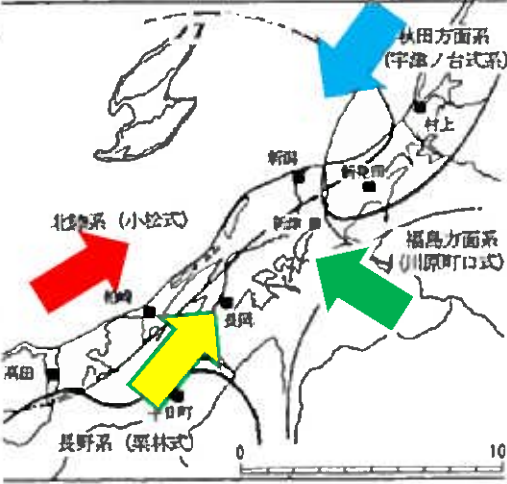
4 4
田市山草荷遺跡の土器群構成 (資料出典: 東西)



北陸系(小松式)



秋田方面系(宇津ノ台式系)



長野系(栗林式)

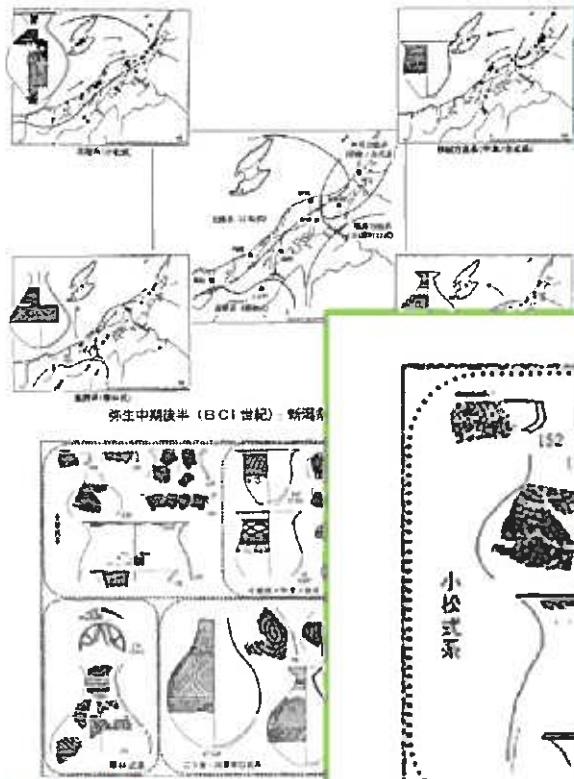


福島方面系(川原町口式)

4

弥生中期後半 (BC1世紀) : 新潟県域の東西南北交流

ひとつの遺跡の中で 東西南北の4系統の土器が共存する！

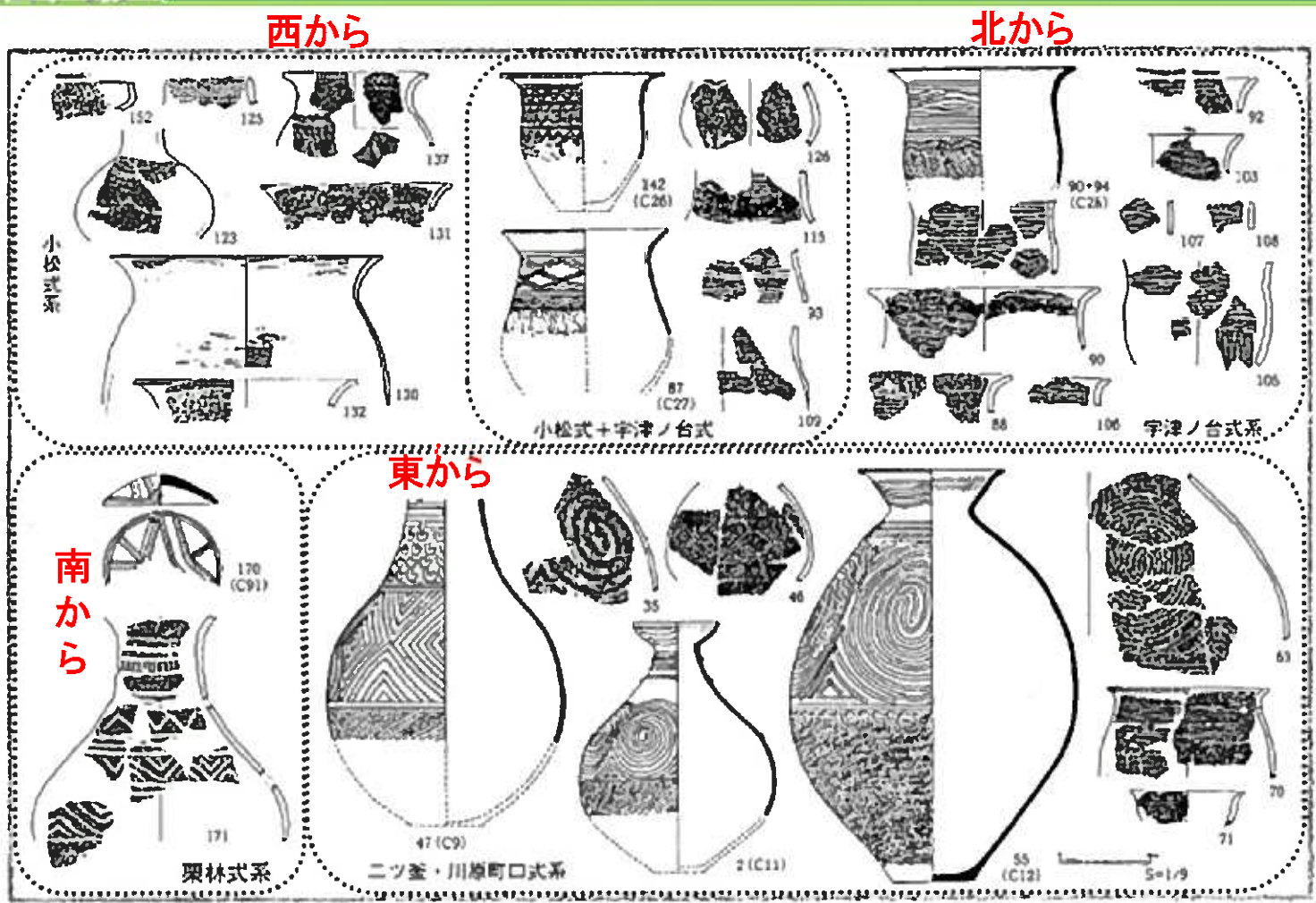


弥生中期後半 (BCI世紀) 新潟県

田市山草荷遺跡の土器群構成

4

4

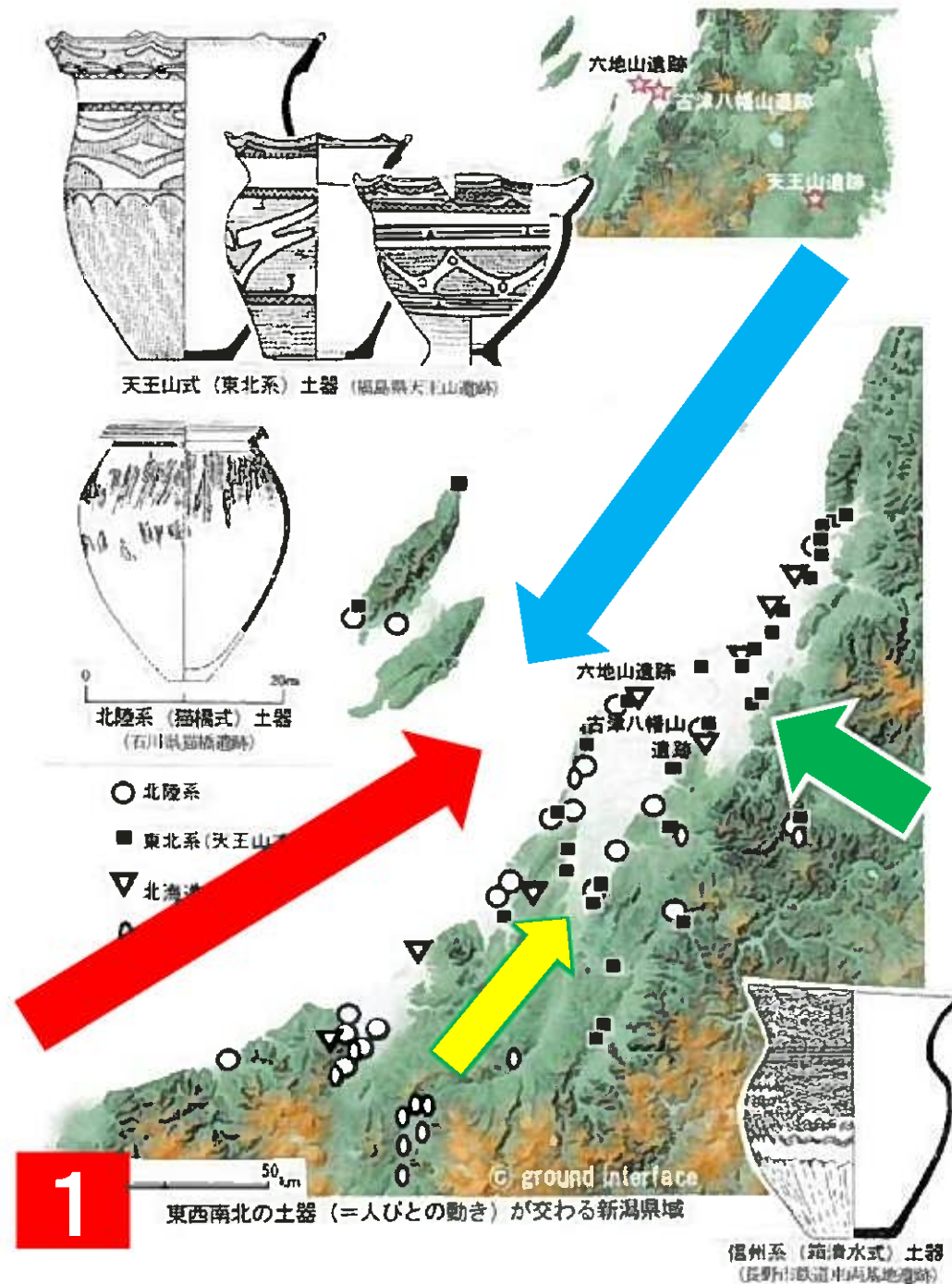


新発田市山草荷遺跡の土器群構成 (石川2019) : 東西南北交流の現場

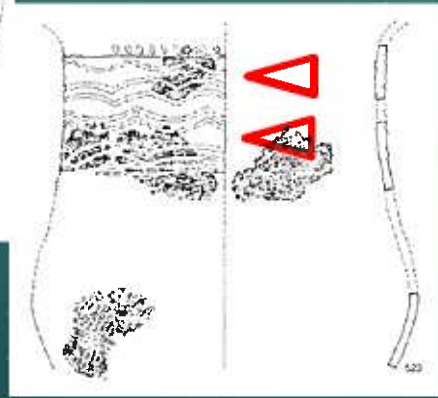
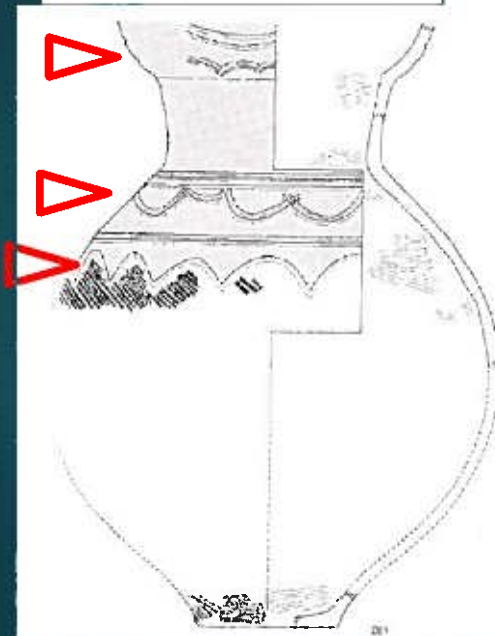
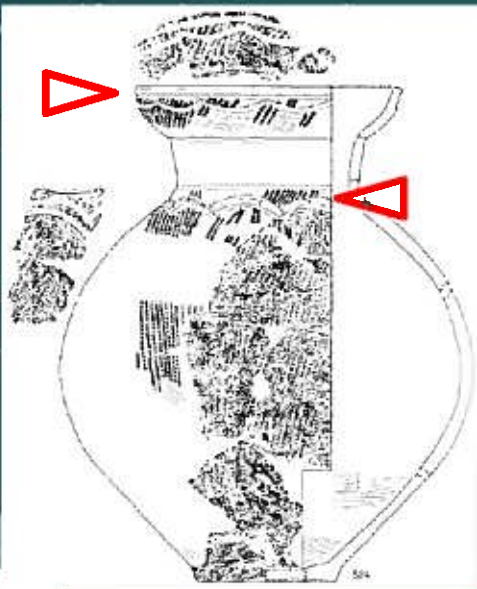
3. 弥生時代「越後」の躍動

弥生時代後期の越後は、
東西南北の諸地域と、密な
上流を重ねた。

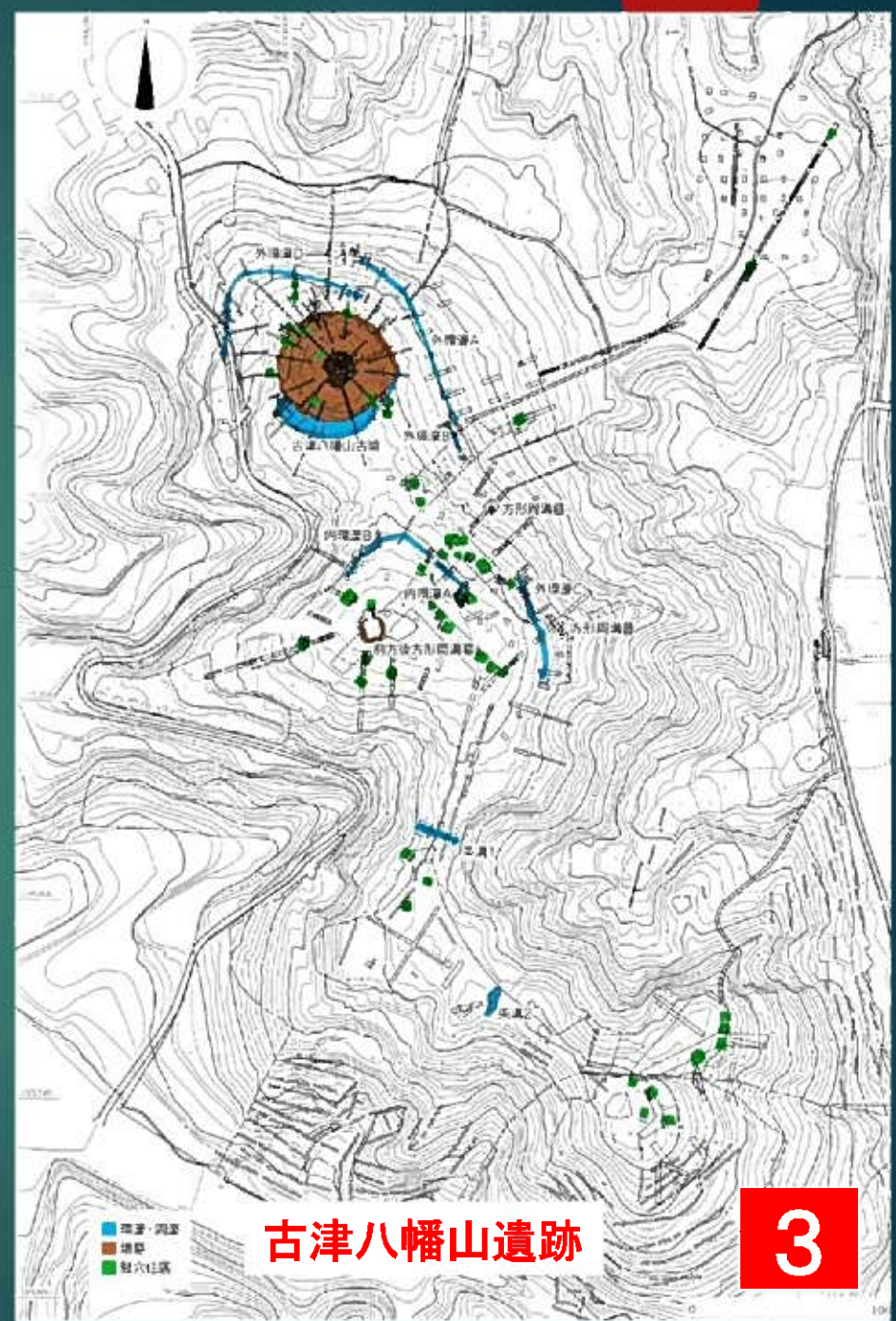
それは、直接には
前段階(中期後半:
BC1世紀後半)の動きが
もとになっている。



後期前半



天王山式土器

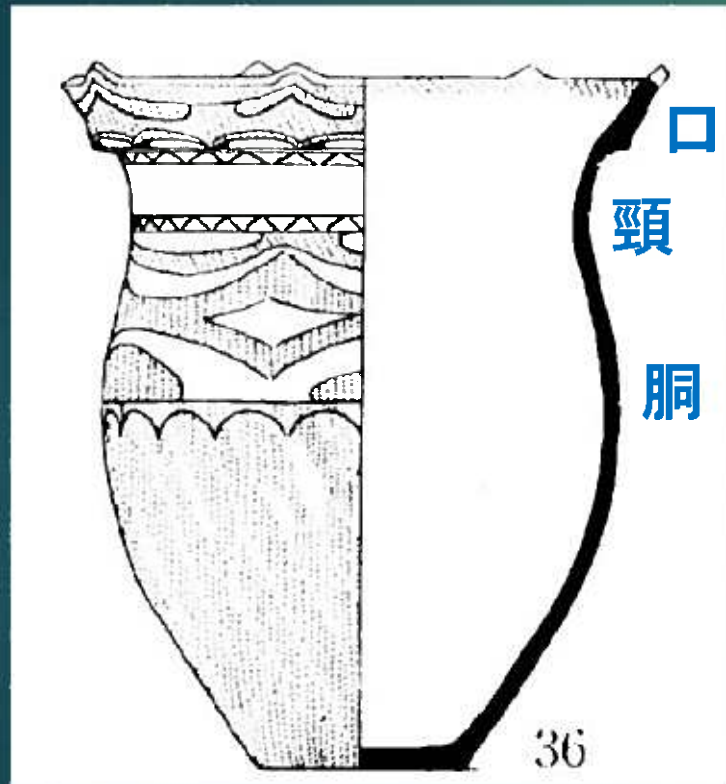


古津八幡山遺跡

天王山式土器

考古学者は、どのように土器を見ているか？

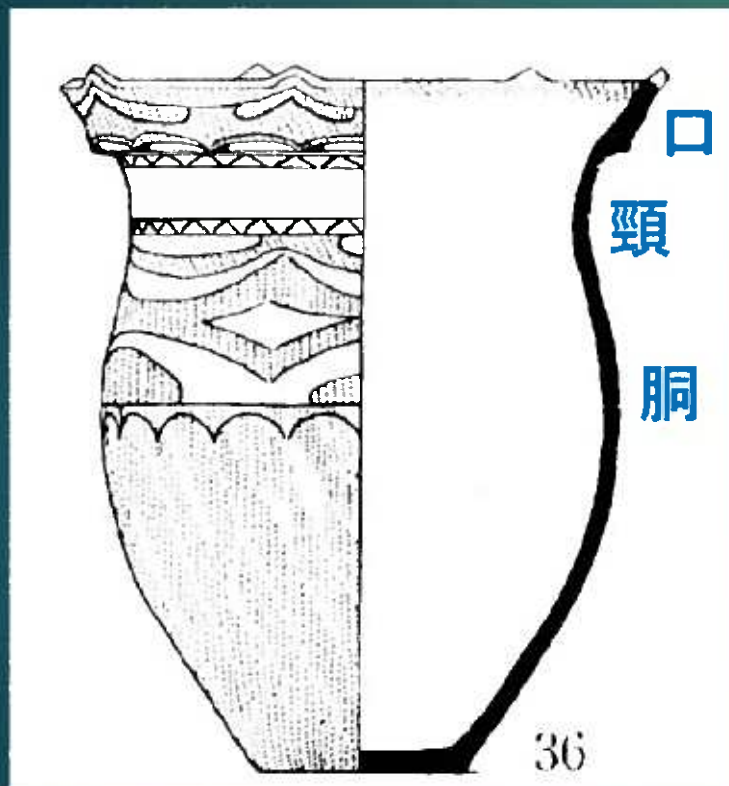
器の形



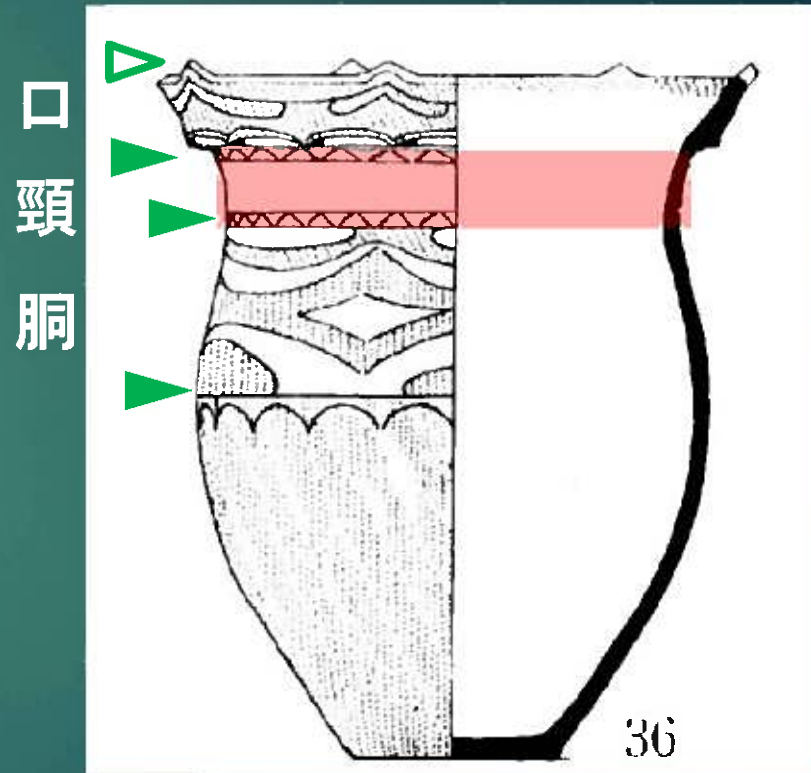
天王山式土器

考古学者は、どのように土器を見ているか？

器の形

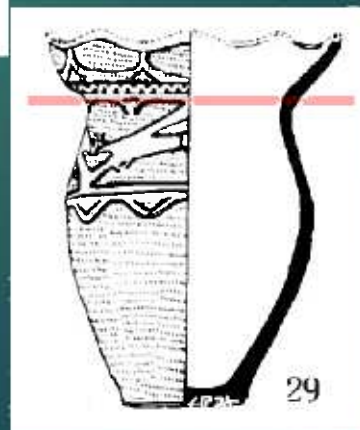
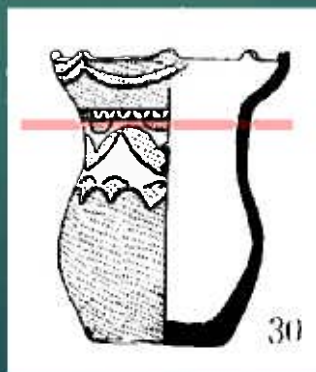
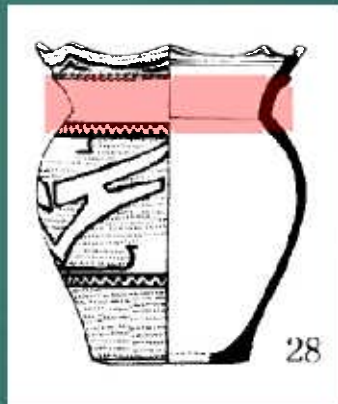
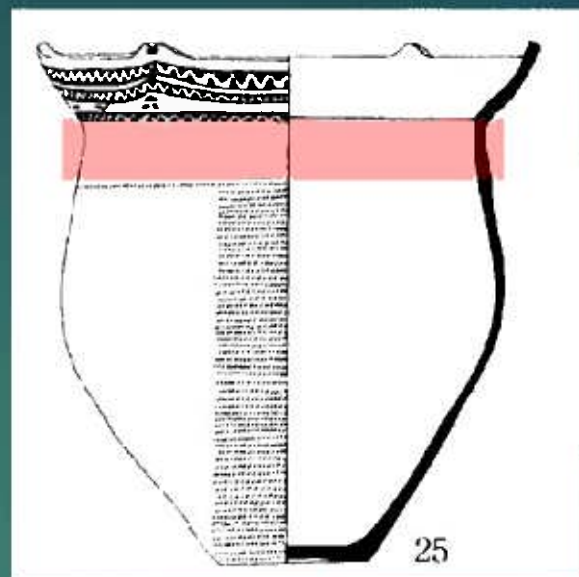
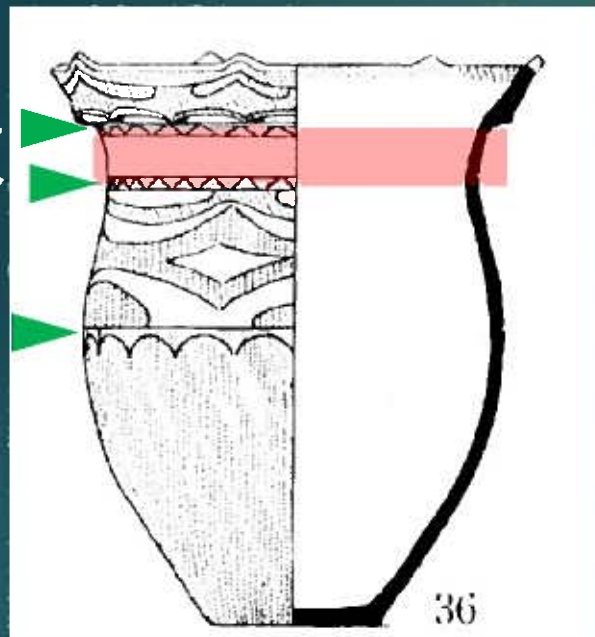


文様の帯



文様の帯

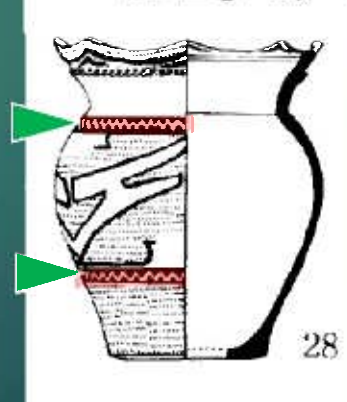
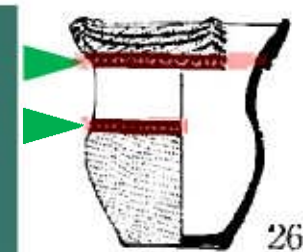
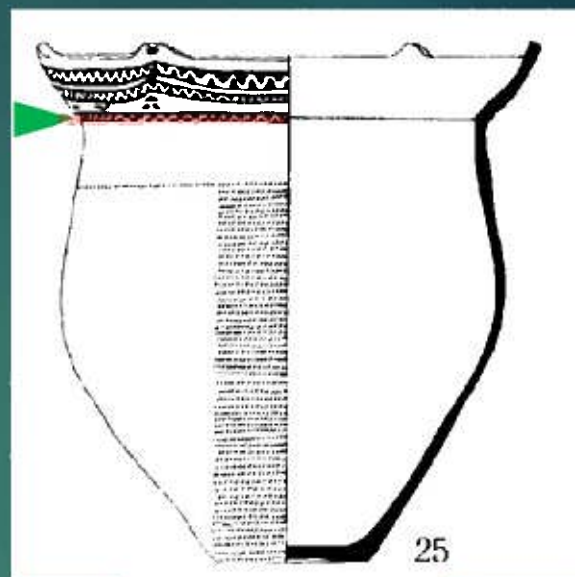
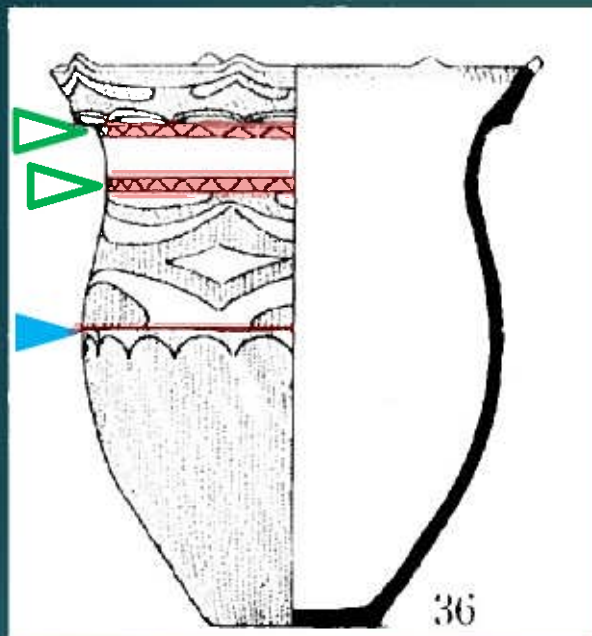
口頸
胴



成 資料編]1, 1958)

文様の帯をどのように区画しているか？

口
頸
胴

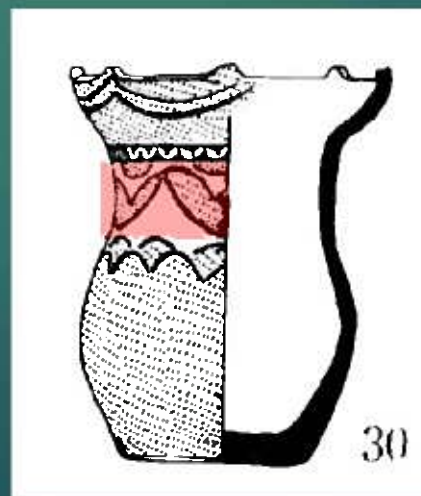
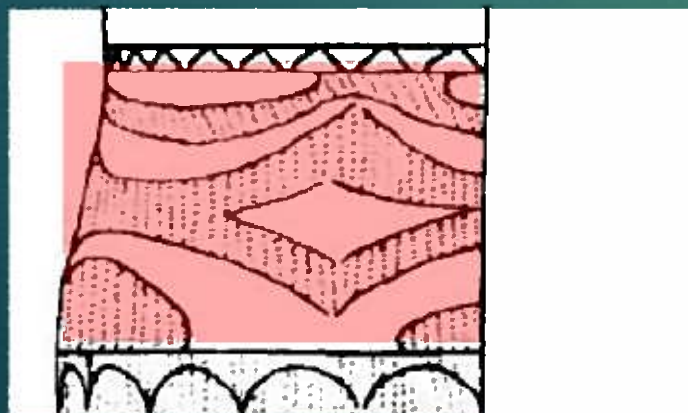
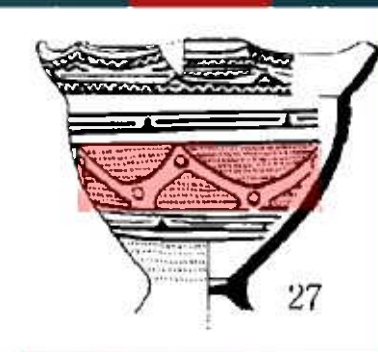
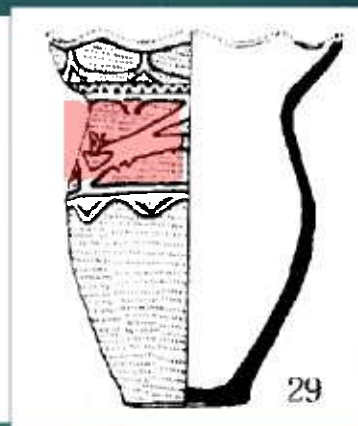
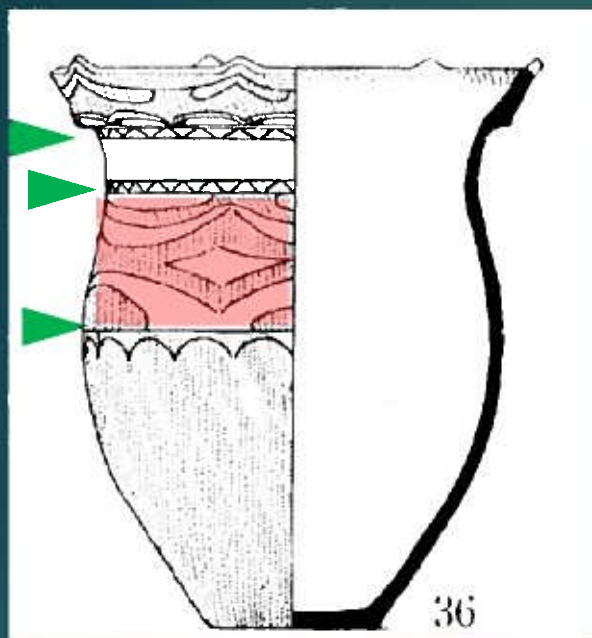


交互刺突文



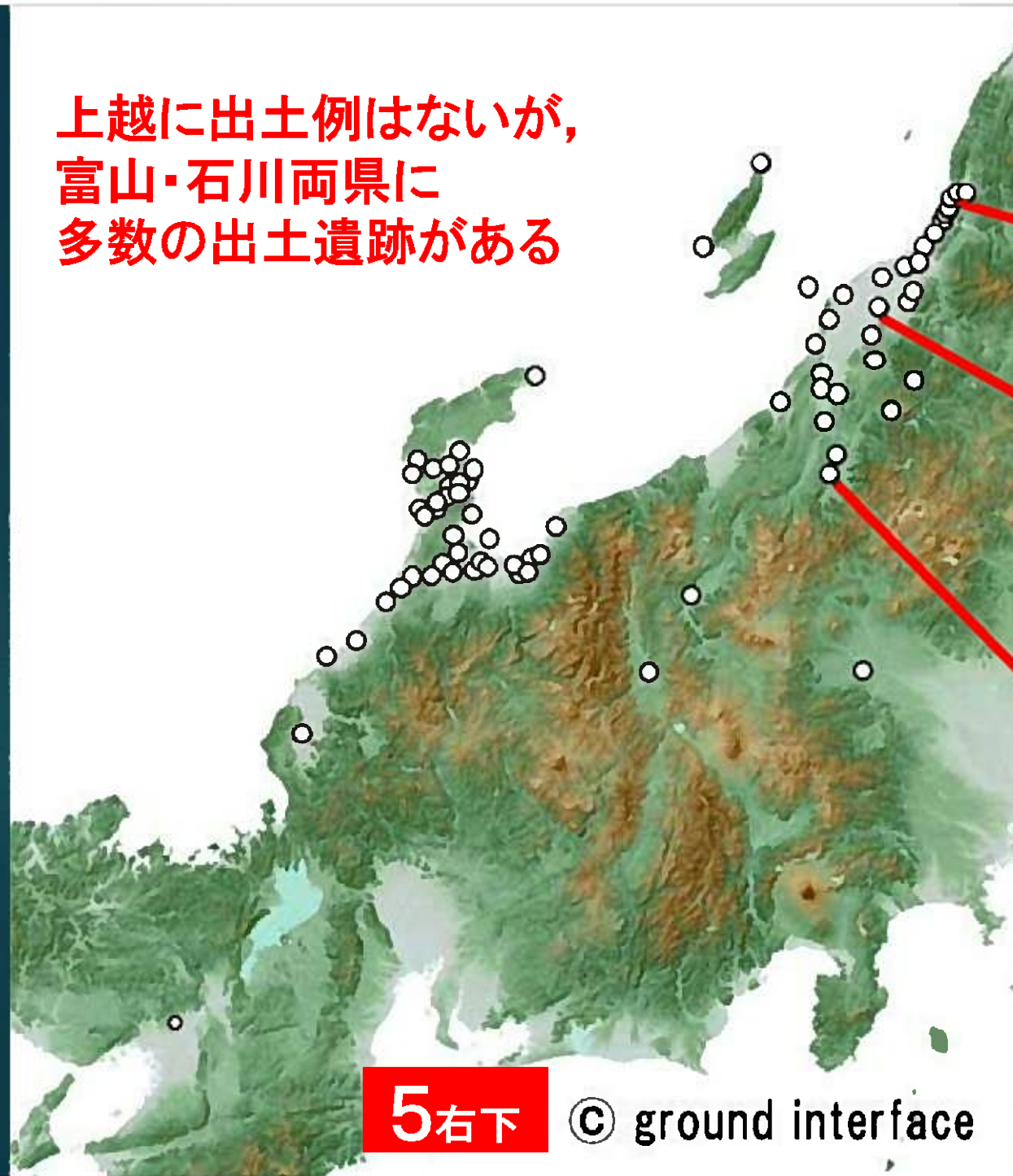
文様の帯の中に、ある図形を横に並べて一周する

口
頸
胴

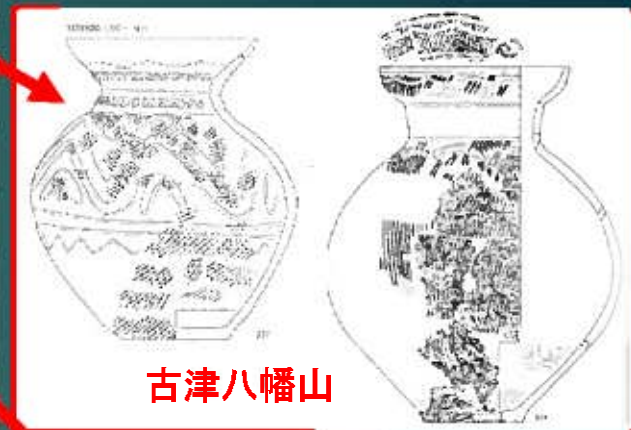


これらの図形は
弧線を組み合わせて
描いている

上越に出土例はないが、
富山・石川両県に
多数の出土遺跡がある



滝ノ前



古津八幡山



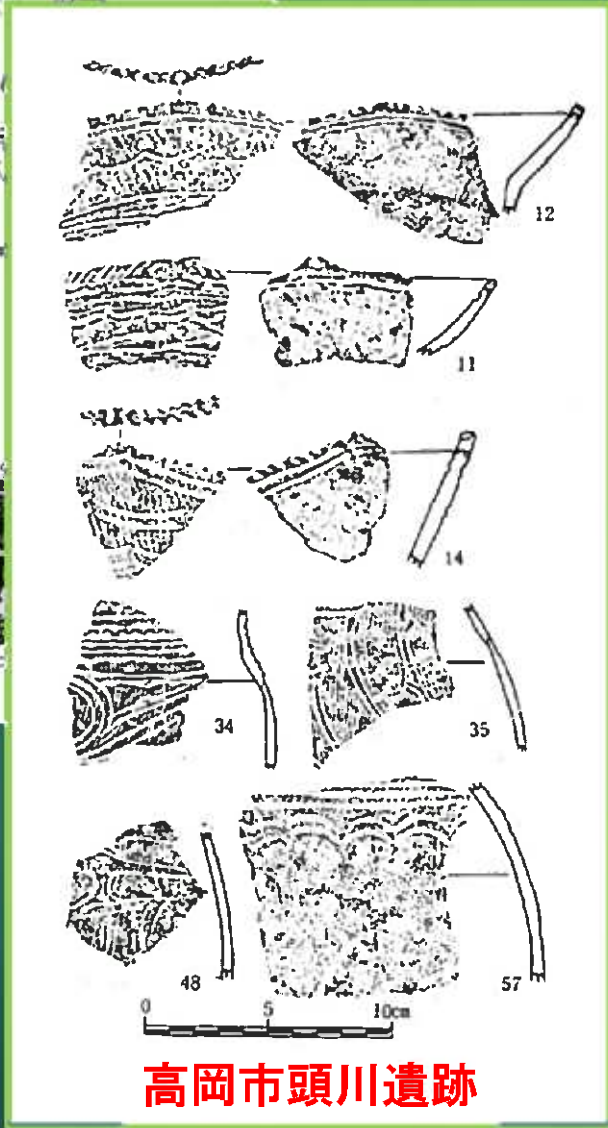
小栗山

5右下 © ground interface

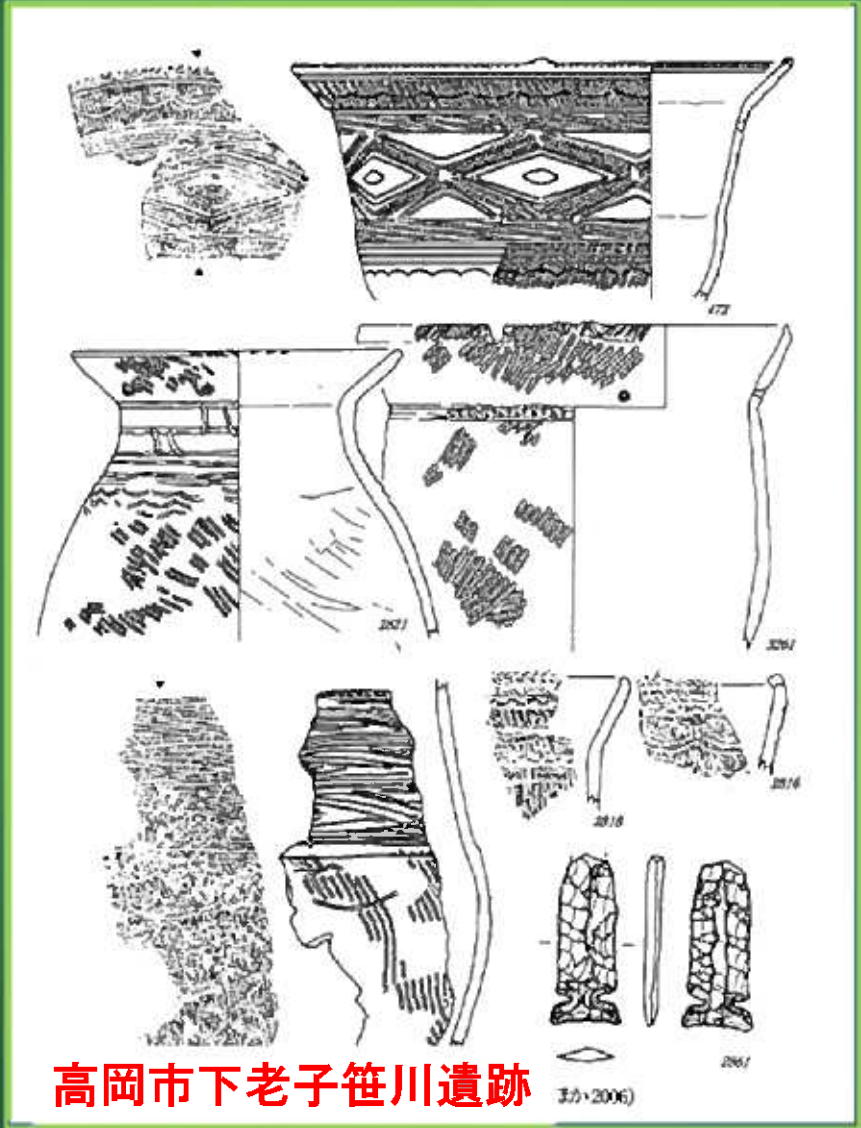
北陸の天王山式土器は 下越方面との類似性がみられる



5



高岡市頭川遺跡



高岡市下老子笹川遺跡

北・2006

天王山式だけの地点と北陸在来地土器と共伴する地点



一時的滞在？

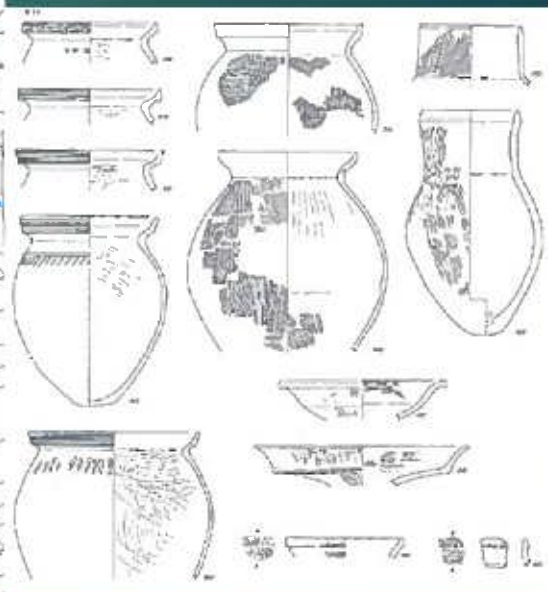


北陸在来集団の集落



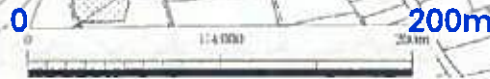
在来集団集落内から
天王山式が出土
(富山県財団調査地点)

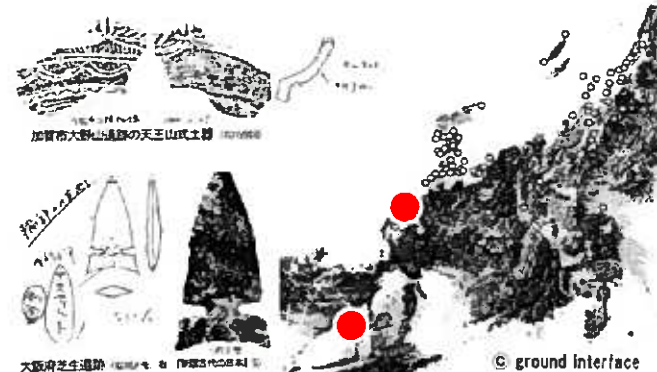
一時的滞在
・活動？



在来地土器(猫橋式)

高岡市
下老子笹川遺跡





西へ行き交う天王山式土器をもつびと

5

5

大阪府芝生遺跡の「アメリカ式」石鏃 下越産珪質頁岩・アスファルト付着



加賀市大野山遺跡の天王山式土器 (石川作図)

加賀市橋立大野山遺跡の天王山式土器



大阪府芝生遺跡 (石川メモ、右: 『新版古代の日本』 5)

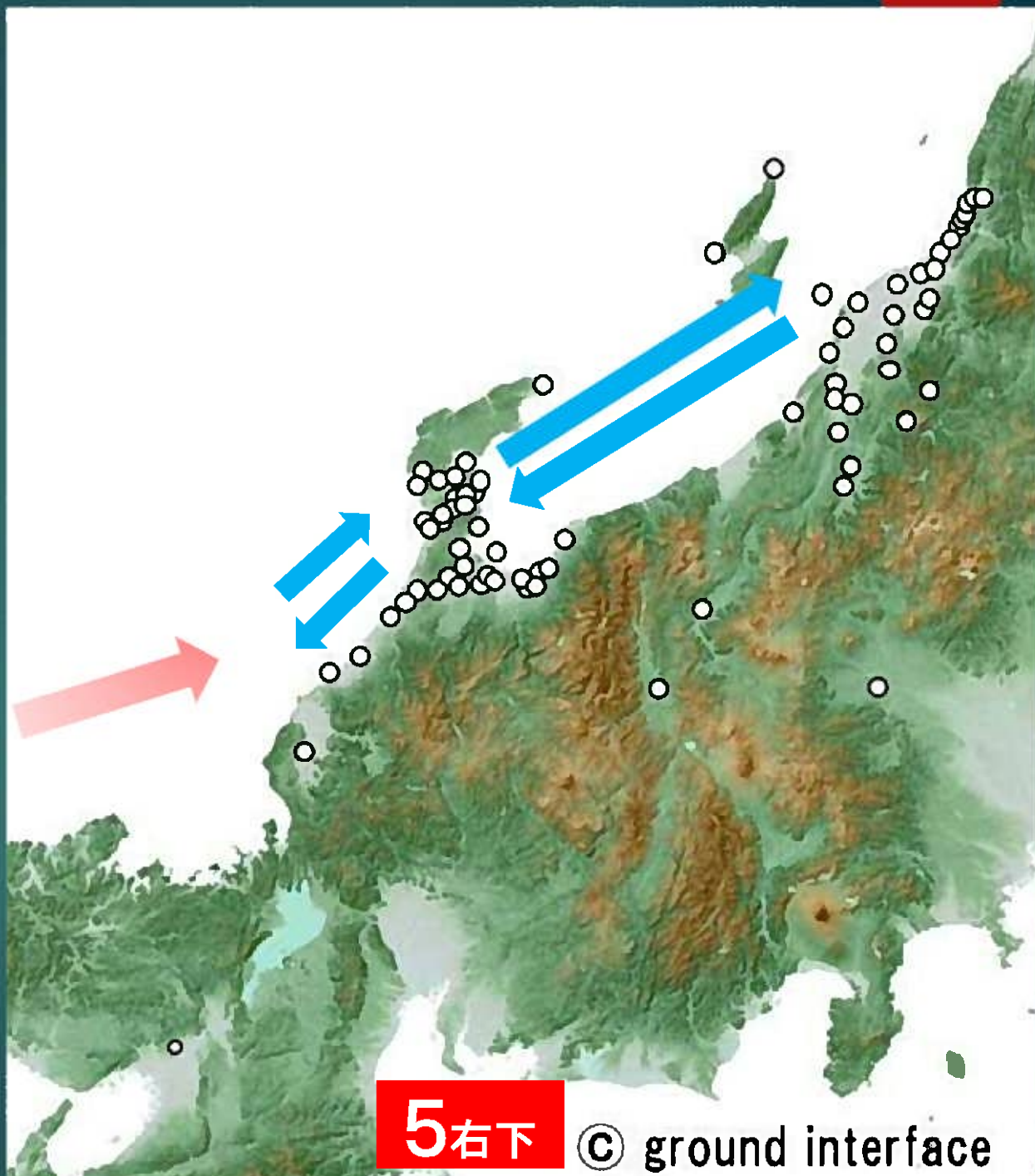
下越から
西へと行き交う
天王山式土器
の人びと

求めたものは
何か??

弥生時代後期は
鉄器が
急速に普及した

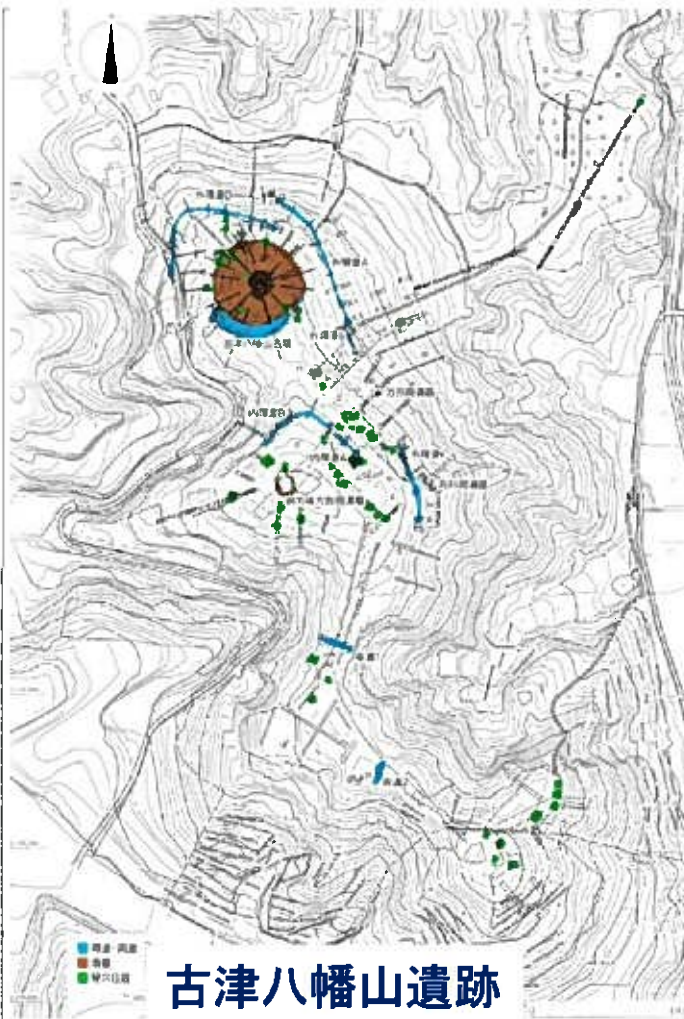
その素材は
朝鮮半島から

新潟～東北の遺跡で
磨製石斧の出土数が
激減する



5右下

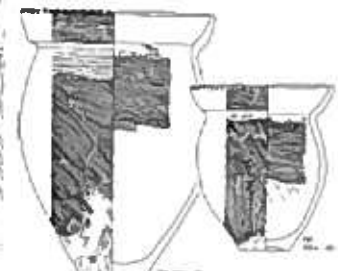
© ground interface



古津八幡山遺跡



東北系(天王山式)土器



折衷(古津八幡山式)土器



北陸系(猫橋式)土器

在来系
(天王山式系)



北陸系



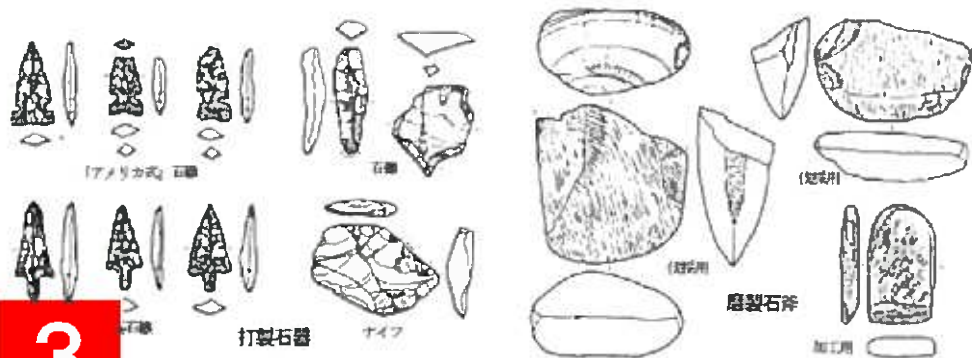
東北系(天王山式)土器



折衷(古津八幡山式)土器



北陸系(猫橋式)土器



打製石器

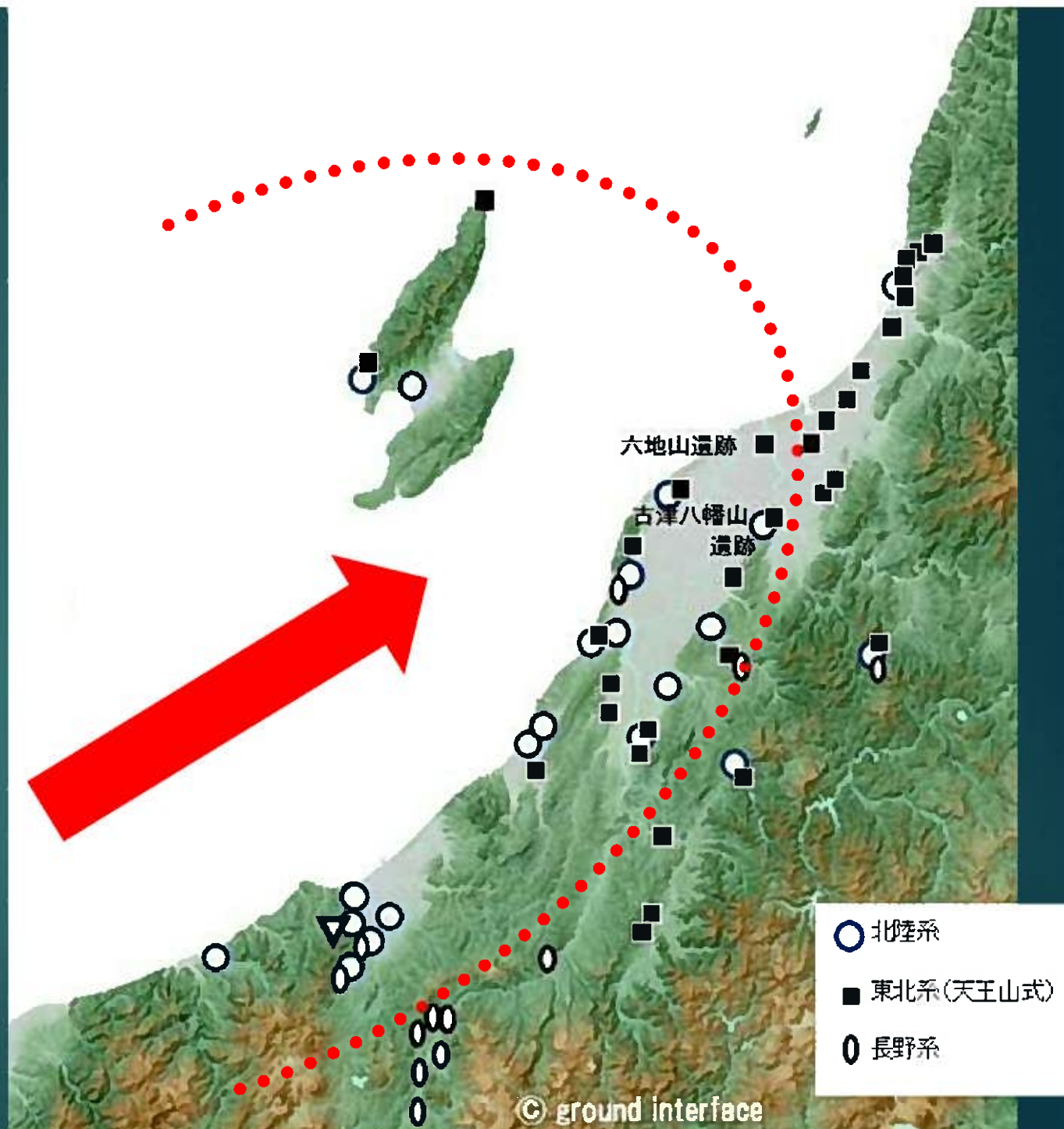
ナイフ

磨製石斧

3

後期後半
(AD2世紀
~3世紀前半)
になると

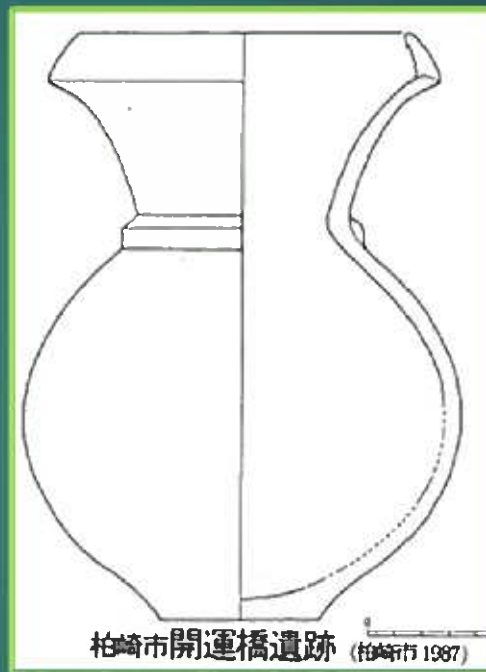
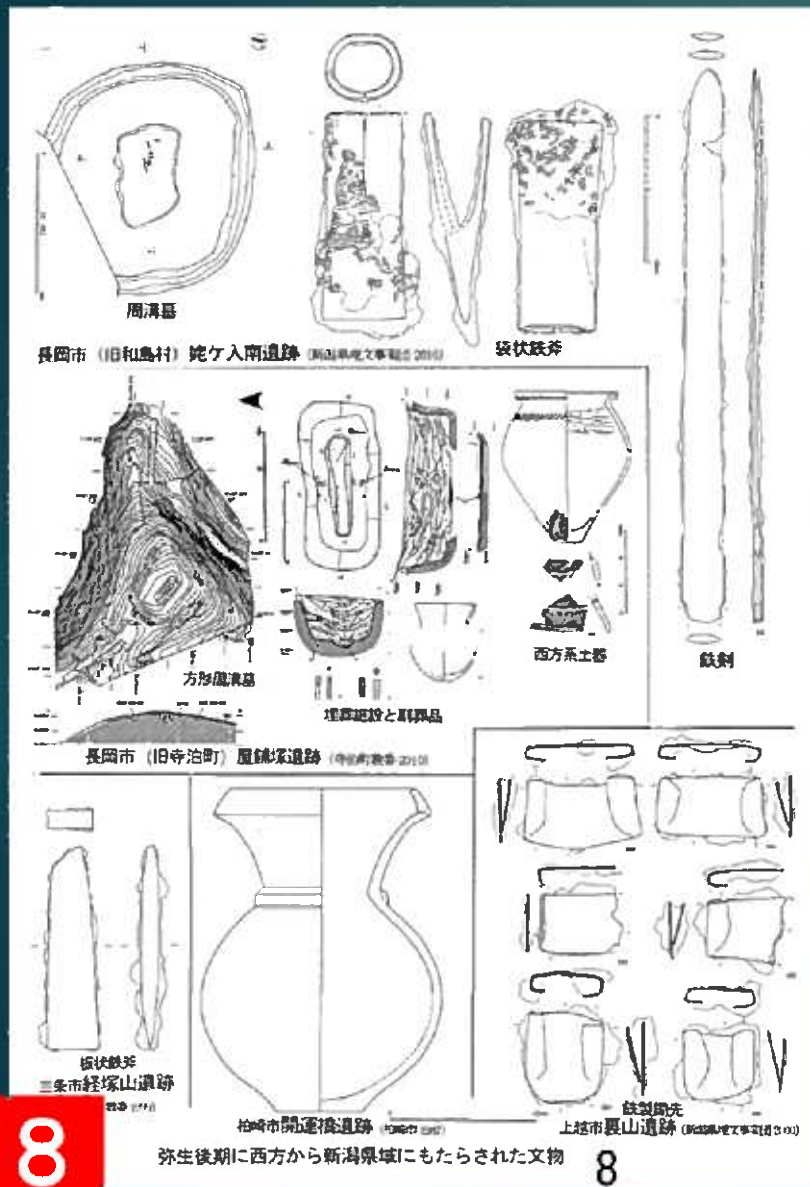
北陸以西からの
文化的影響が
圧倒的となる



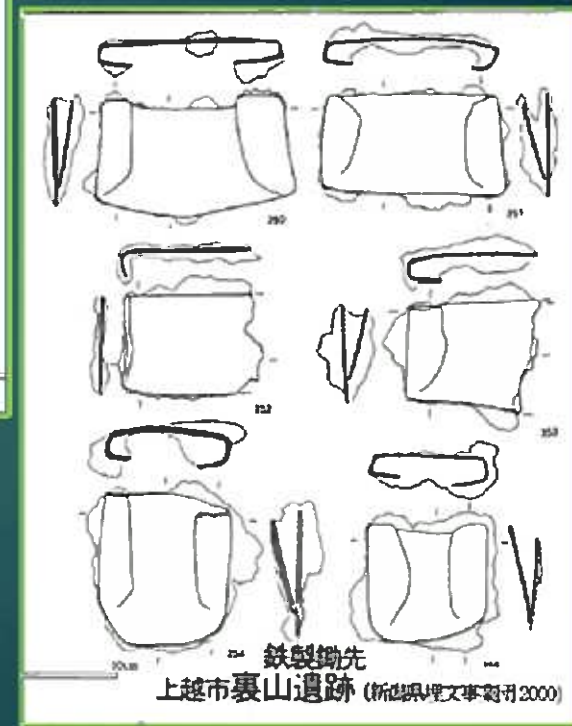
会津でも、 北陸に由来する激動！



3. 弥生時代後期後半(AD2~3世紀) の東西交流

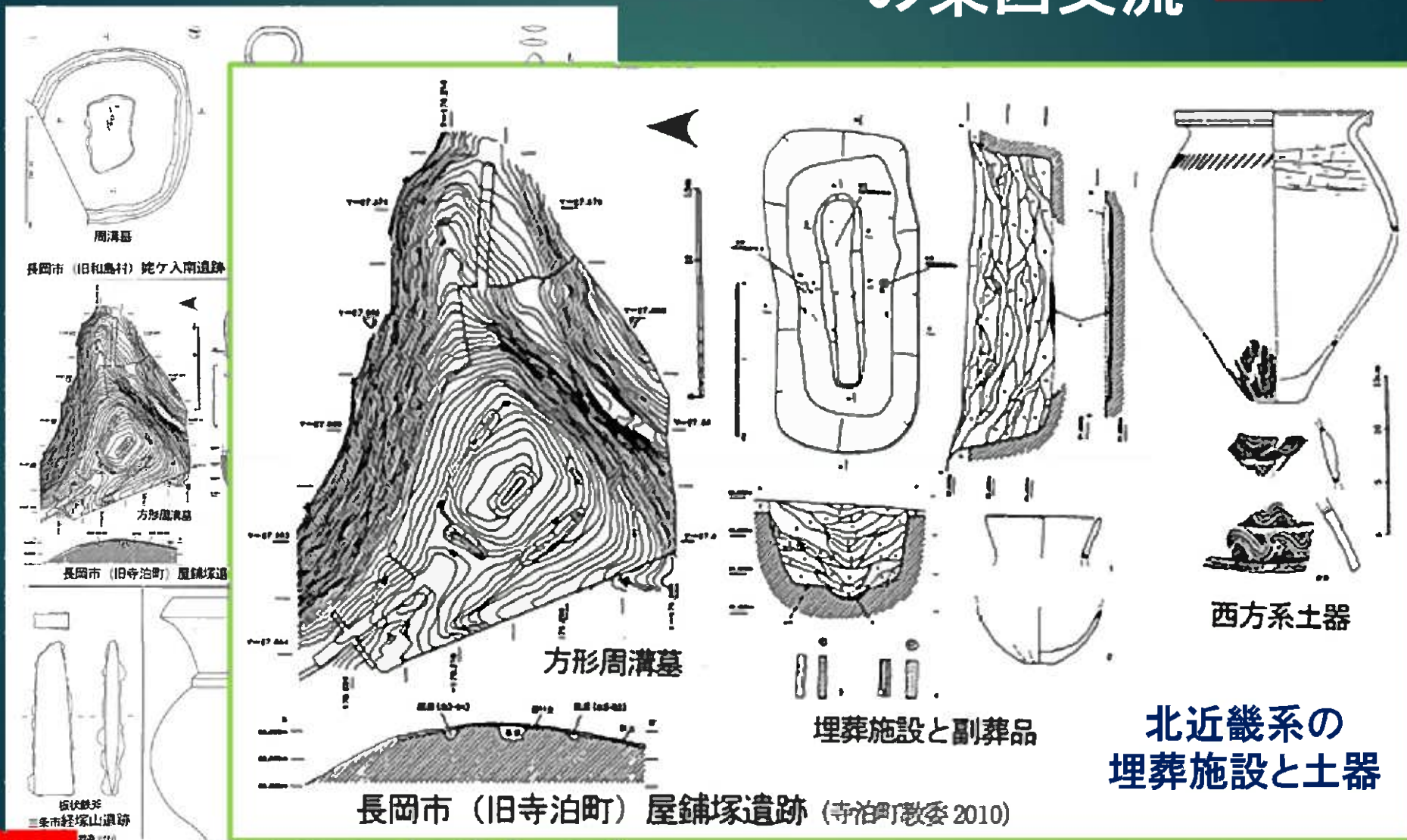


北部九州から
持ち込まれた壺

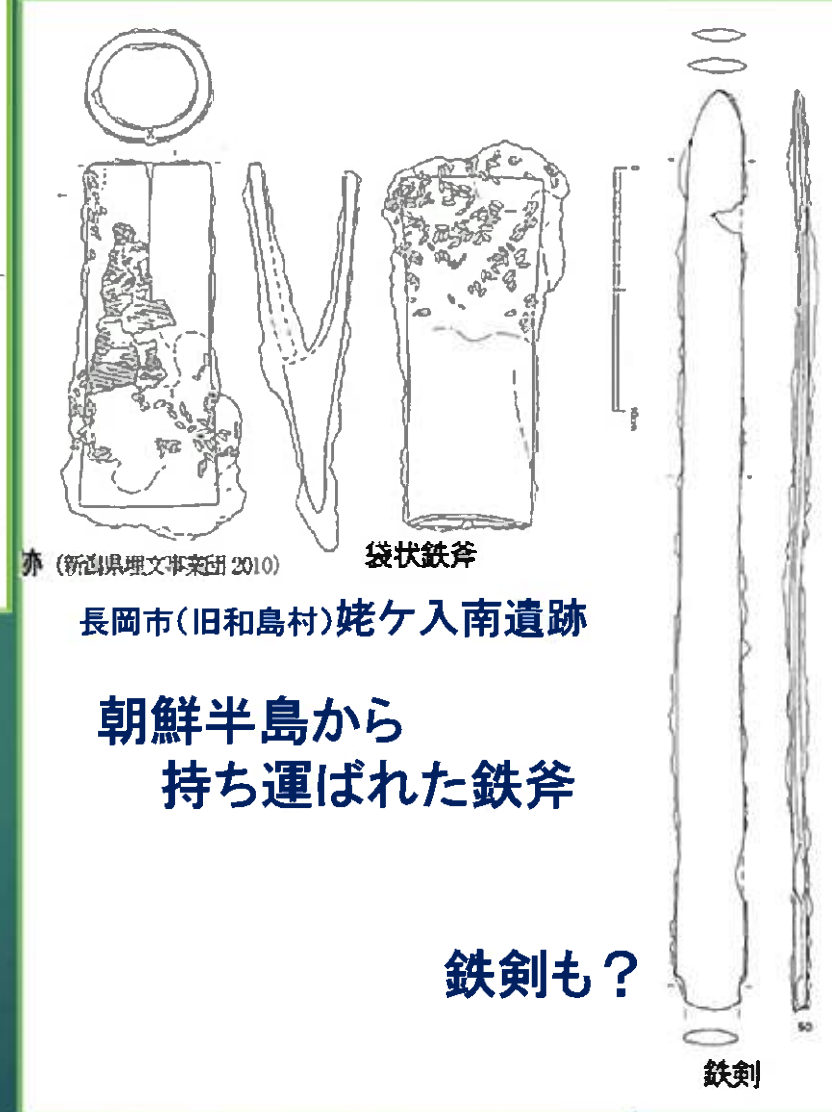
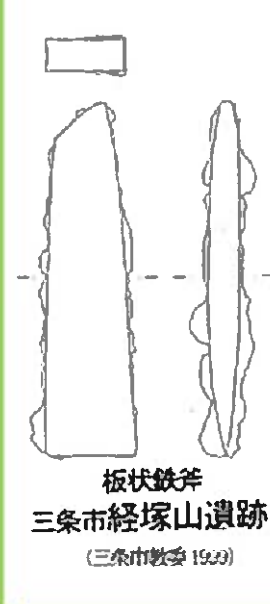
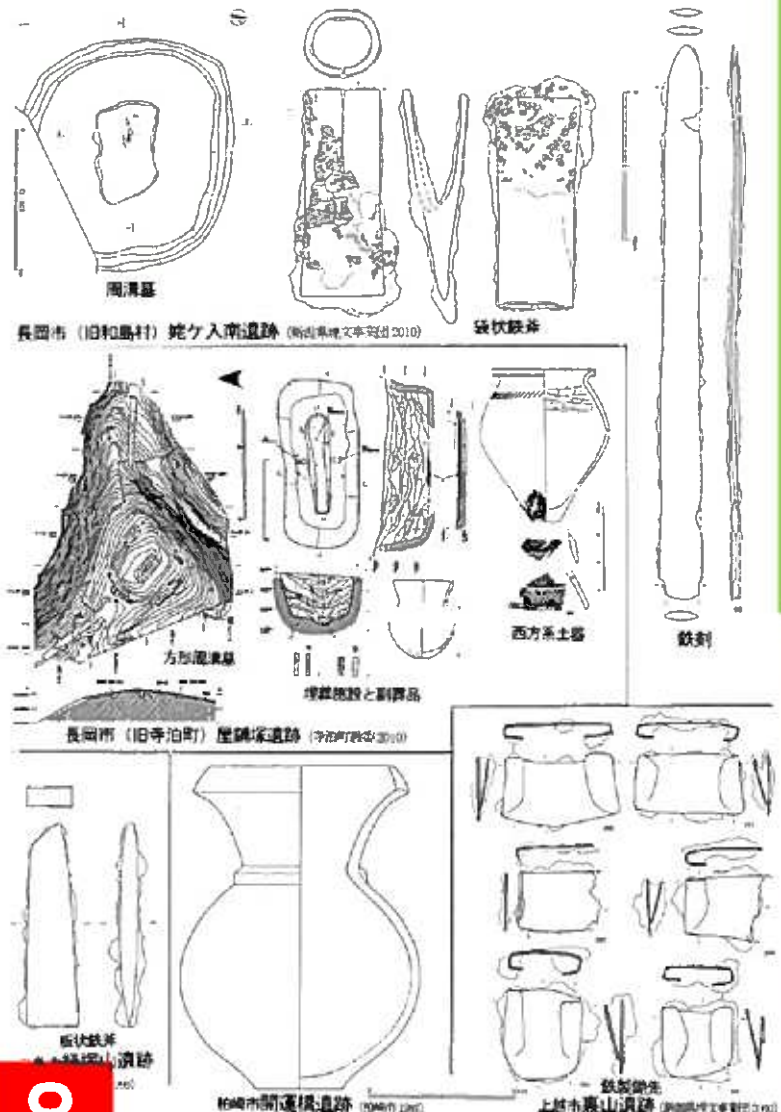


北部九州系の鉄製鋤先

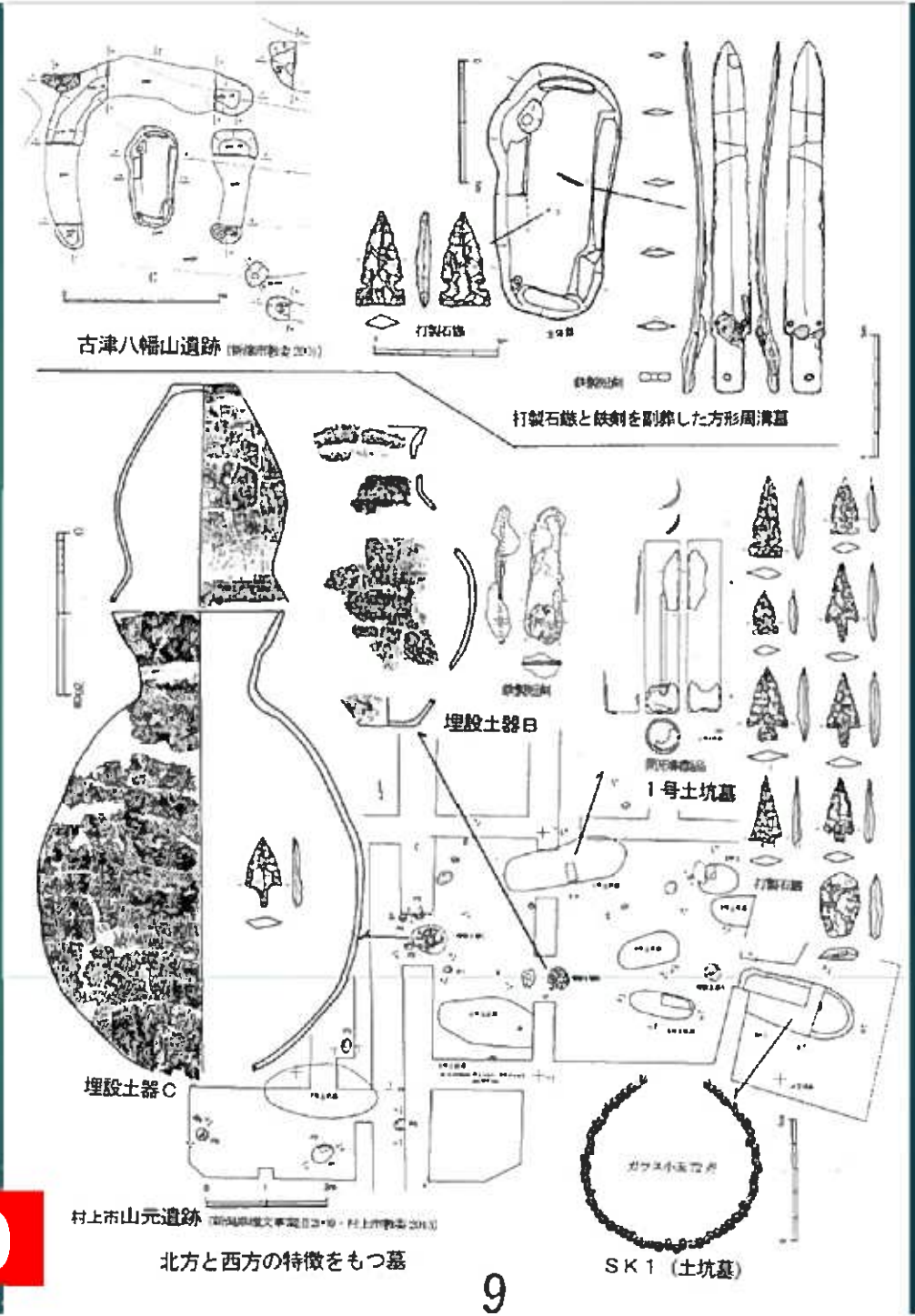
3. 弥生時代後期後半(AD2~3世紀) の東西交流



3. 弥生時代後期後半(AD2~3世紀) の東西交流



古津八幡山や
山元遺跡では、
西方系だけでなく、
東北・北方系要素も
みられることに注目！



古津八幡山や山元遺跡では、 東北・北方系要素もみられることに注目！

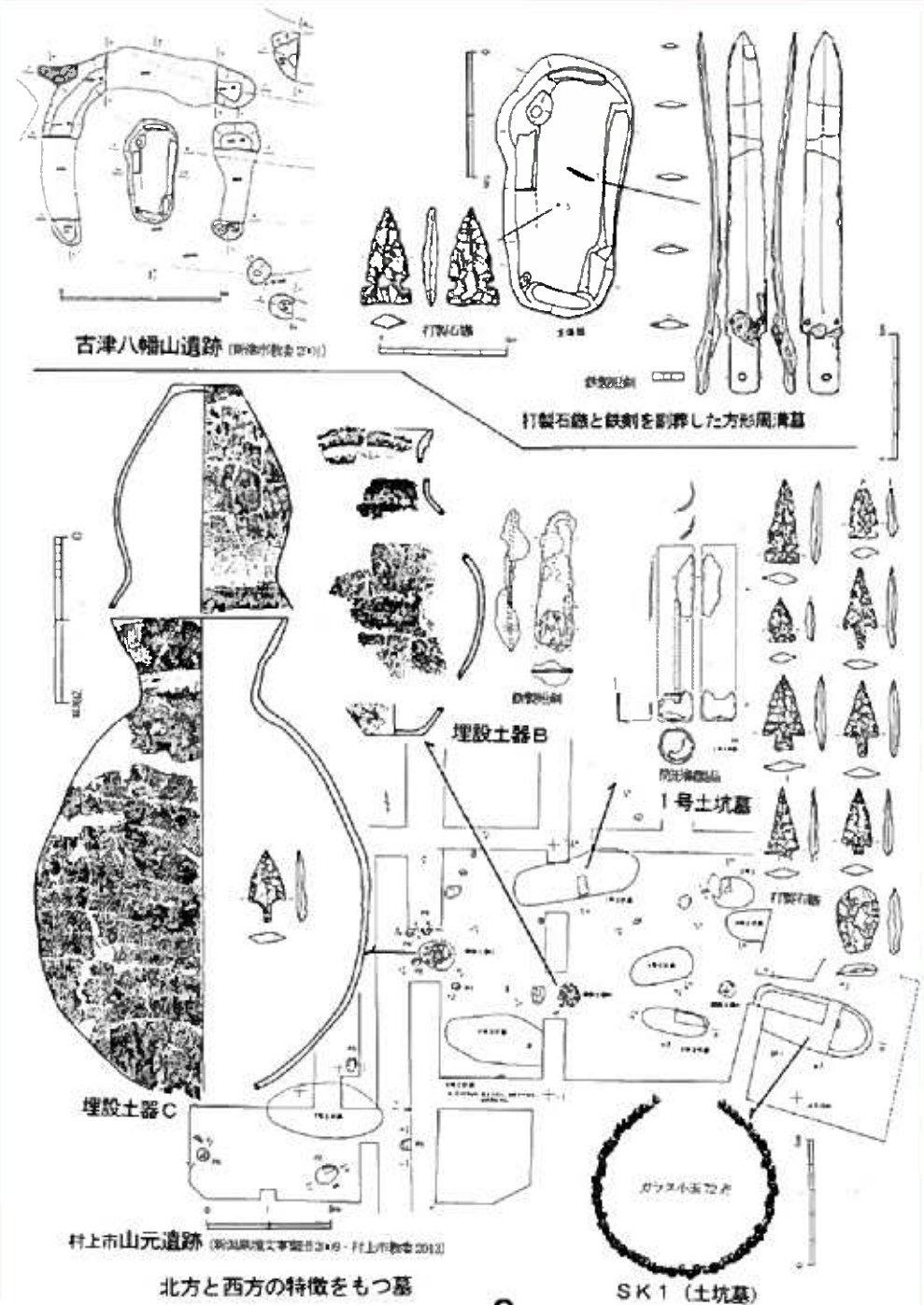


西方系： 方形周溝墓，木棺，鉄剣

北方系： 打製石鏃の副葬

→ それが共存している！

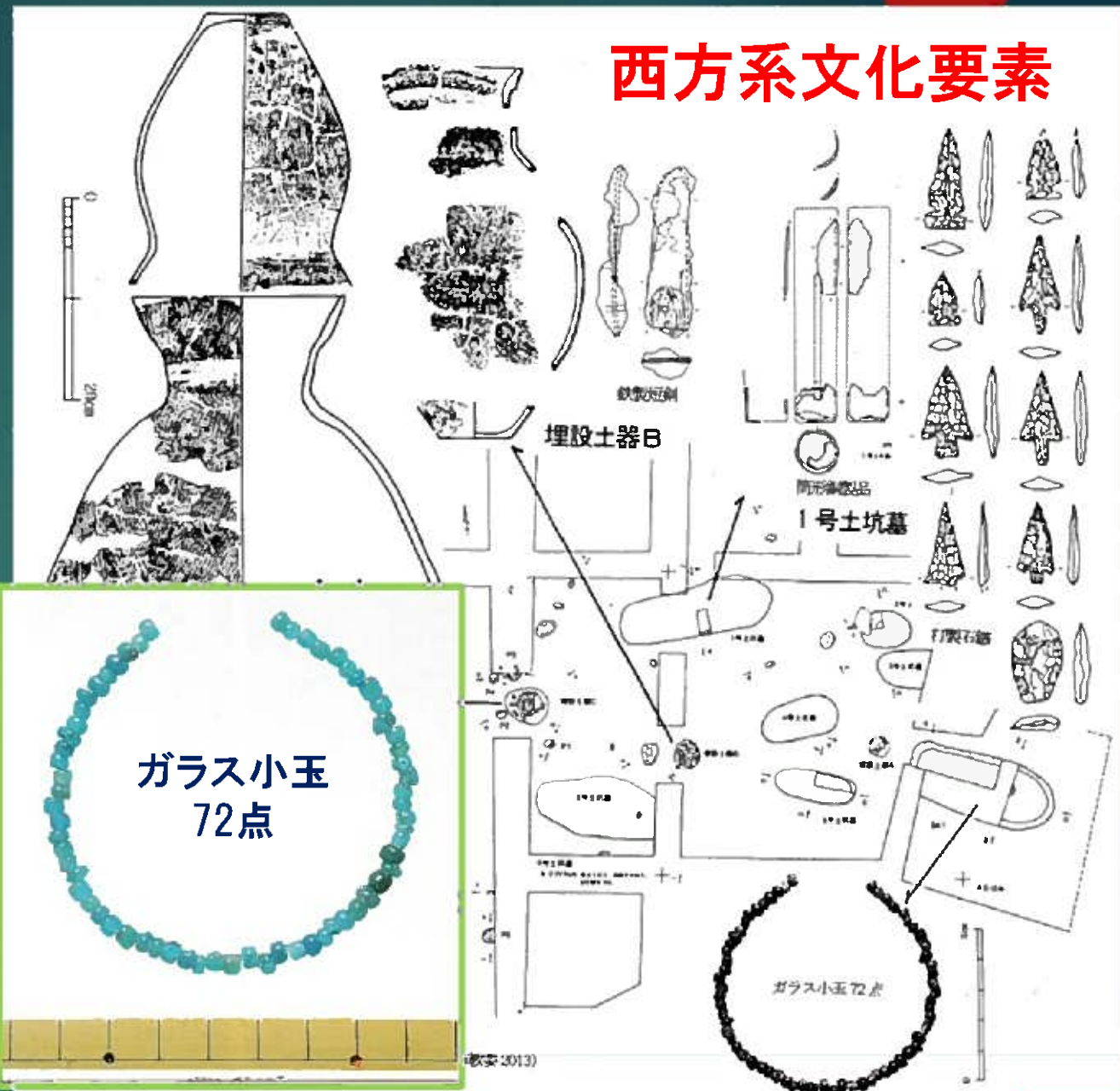
古津八幡山や
山元遺跡では、
西方系だけでなく、
東北・北方系要素も
みられることに注目！



西方系文化要素



筒形銅製品



鉄製短剣



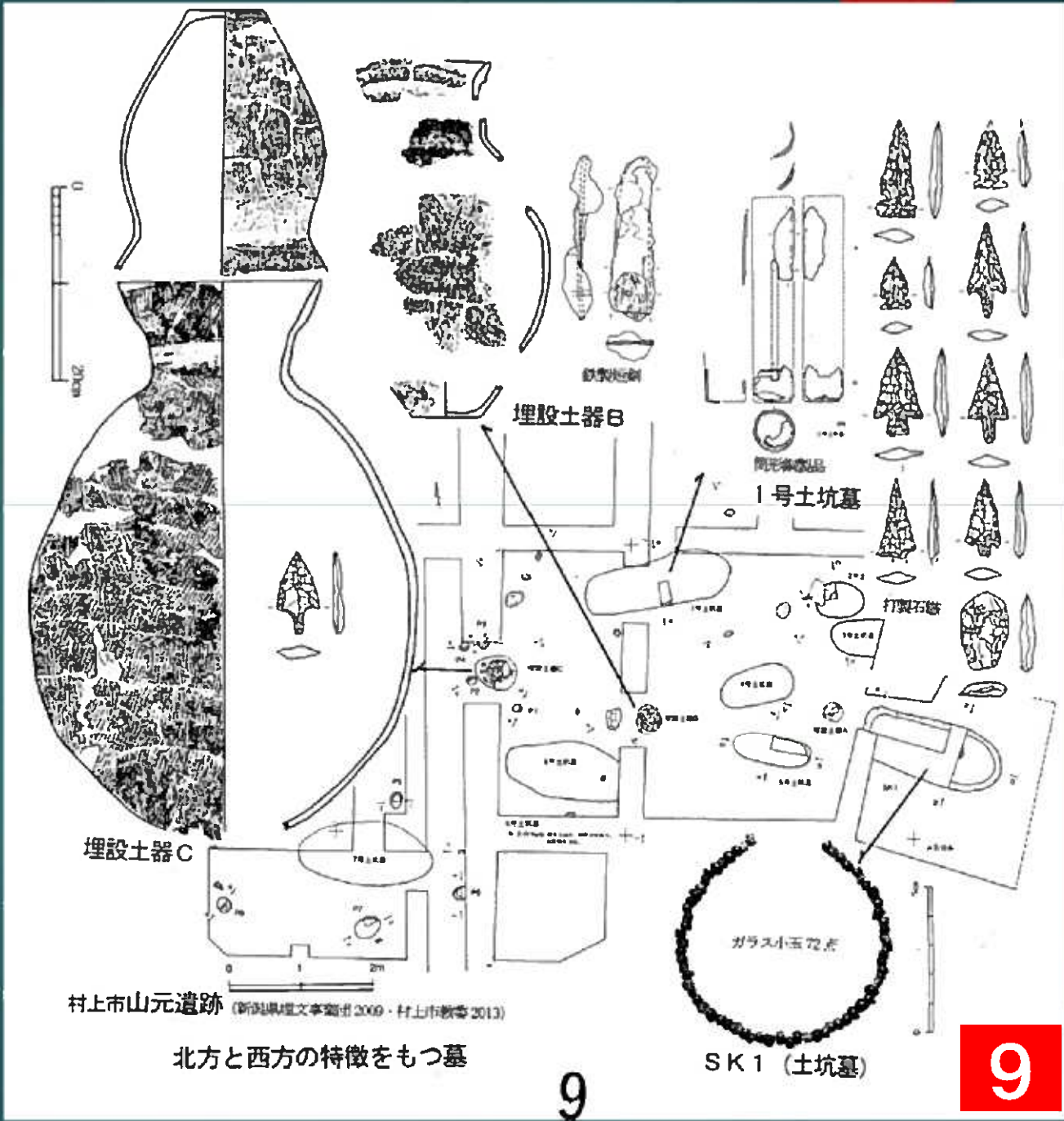
ガラス小玉
72点

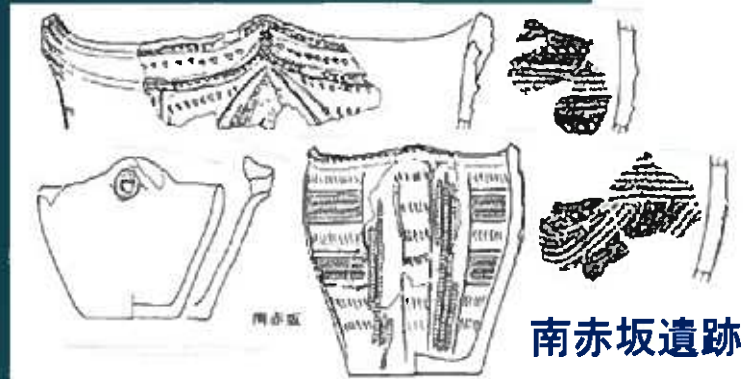
北方と西方の特徴をもつ墓

東北・北方系 文化要素

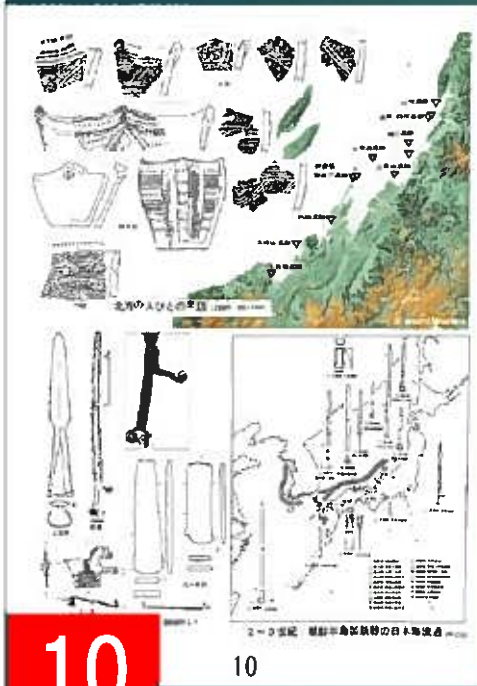
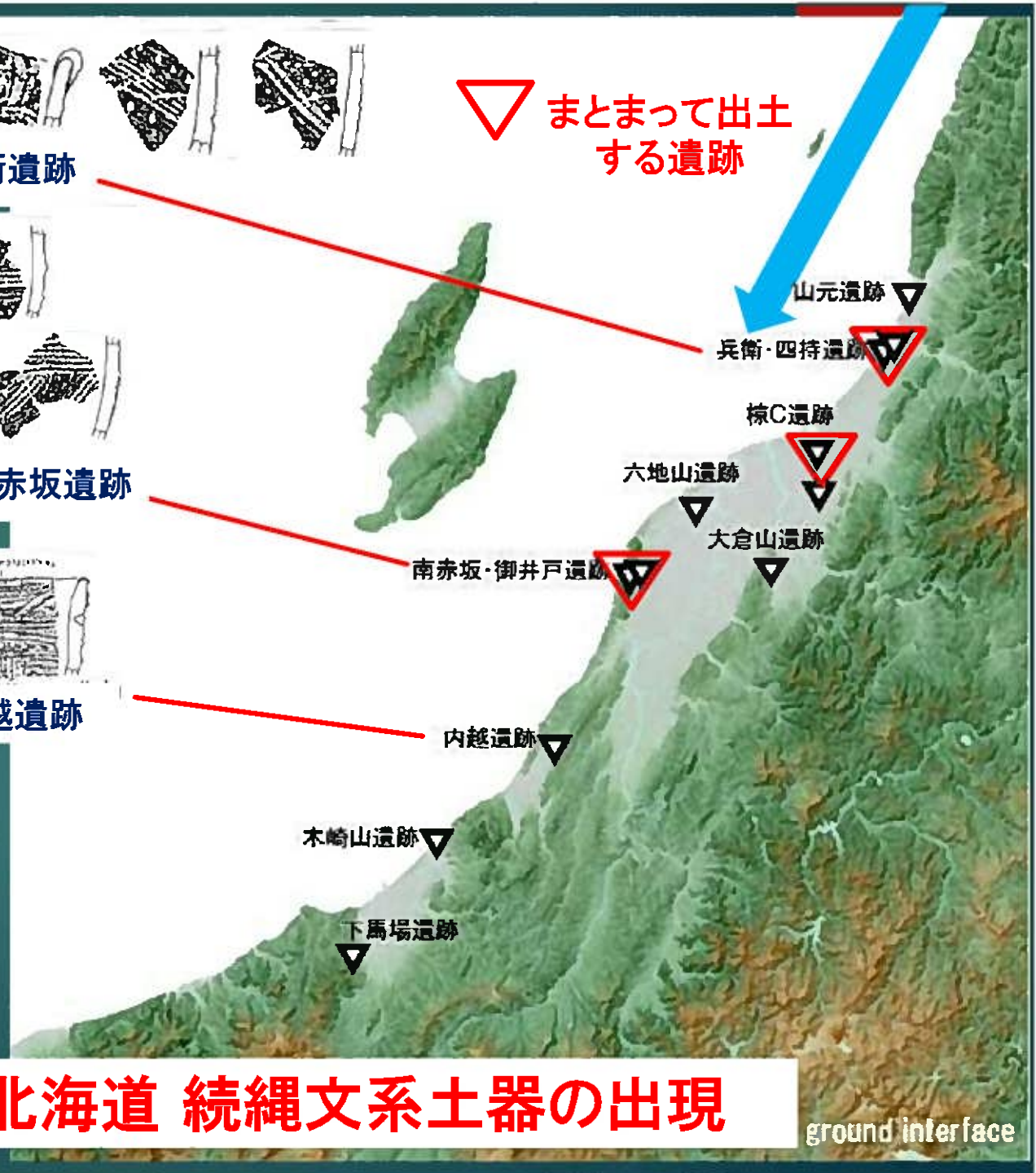
- ・土坑墓
- ・埋設土器
=土器棺
- ・打製石鏃の副葬

★ 埋設土器Bに
鉄製短剣が
副葬されている！





▽ まとまって出土
する遺跡



北海道 続縄文系土器の出現

ground interface

根塚遺跡(長野県木島平村)渦飾り付鉄剣



鉄剣
(長さ56.0cm)



鉄剣
(長さ74.0cm)



X線写真

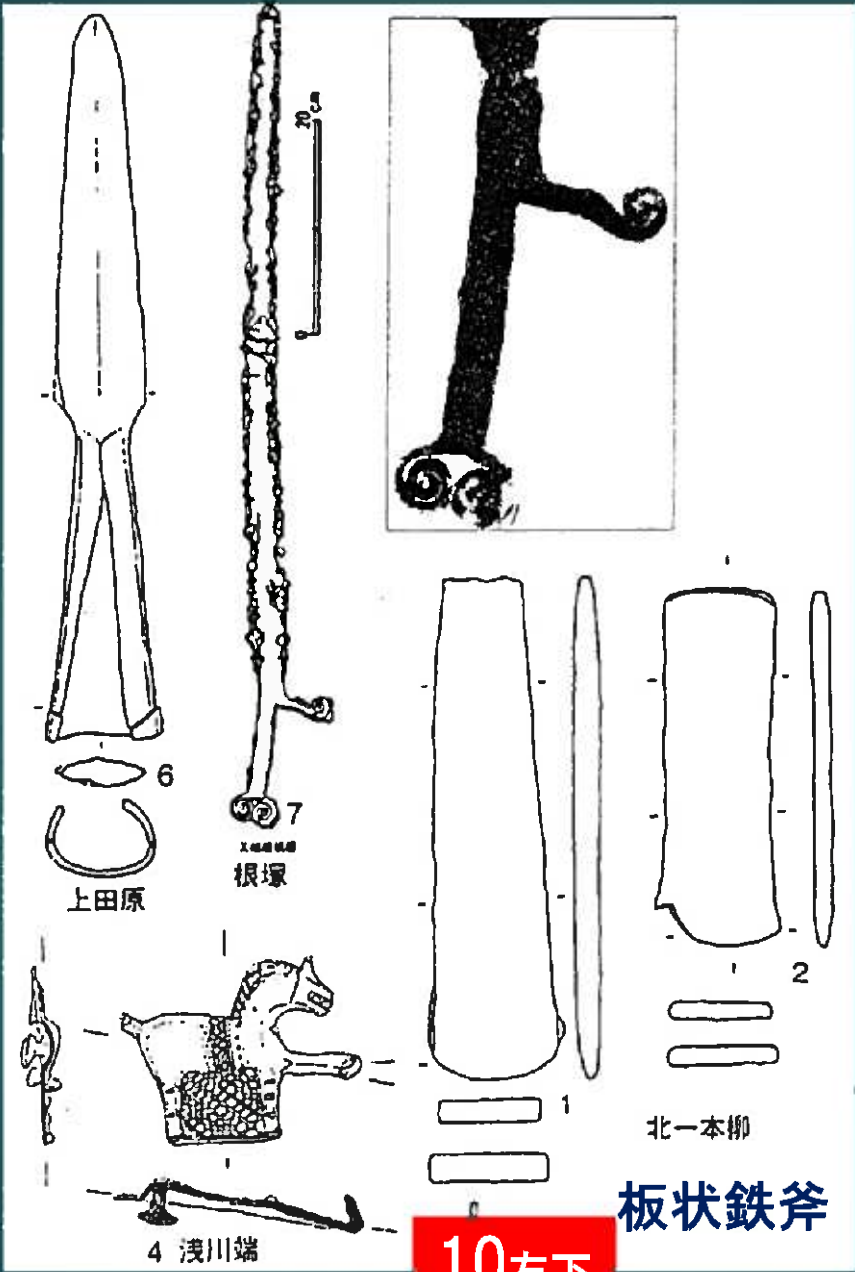


朝鮮半島製で、特注説もある

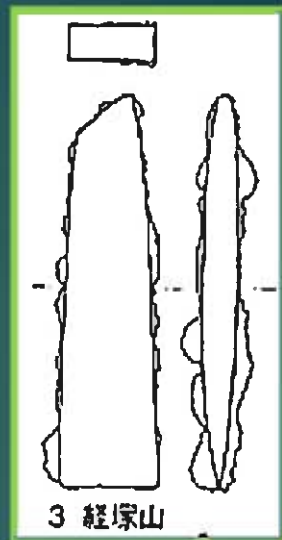
長野県北部で発見された朝鮮半島製の鉄器と青銅器



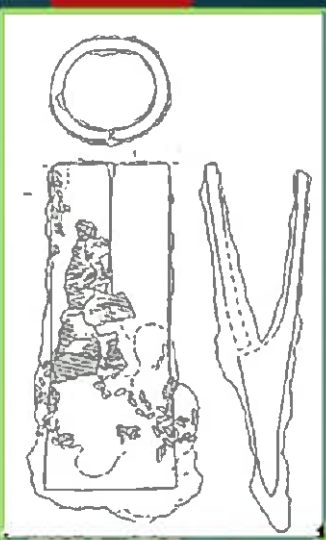
鉄矛



10左下



3 経塚山

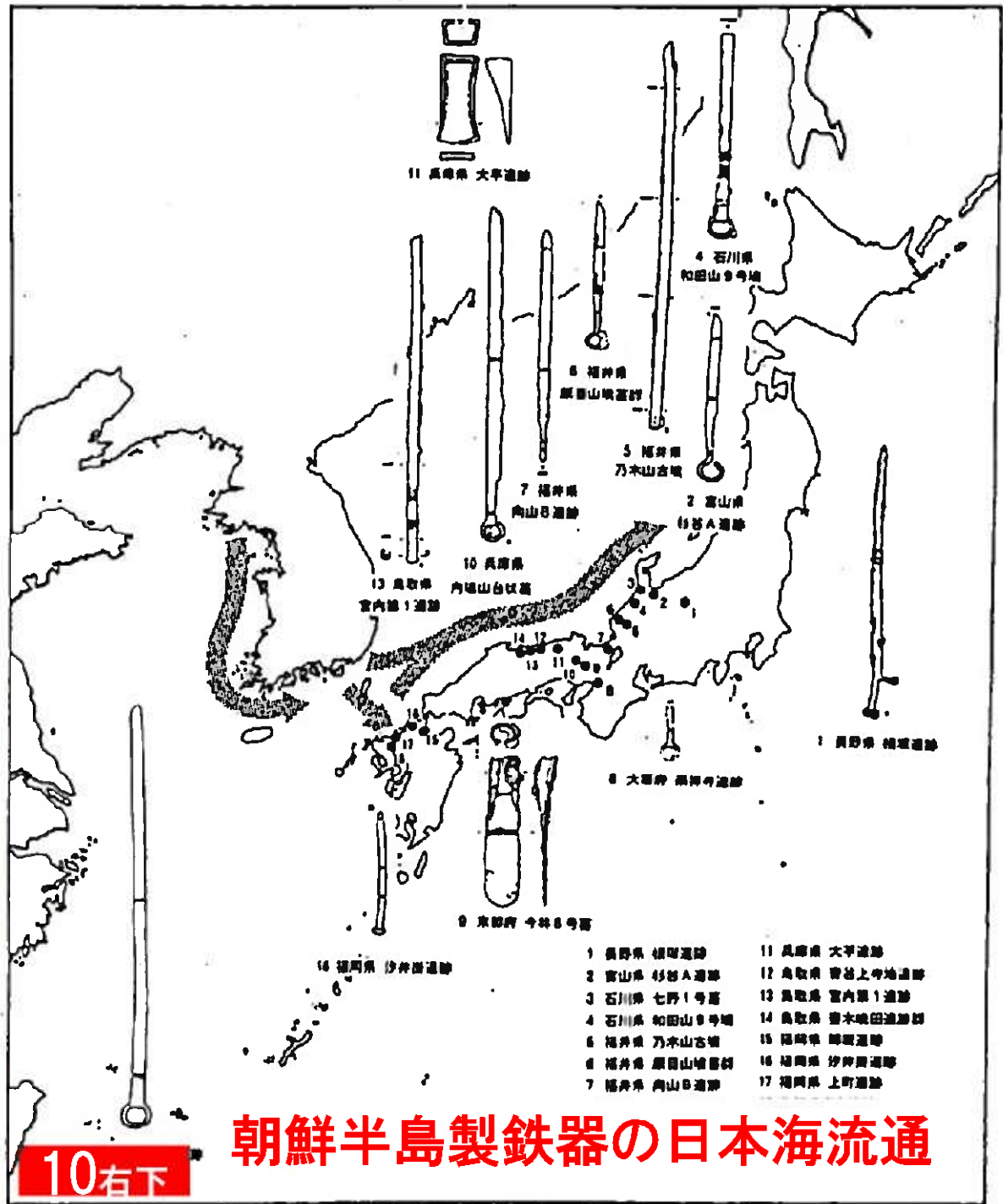


三条市経塚山・長岡市姥ヶ入南

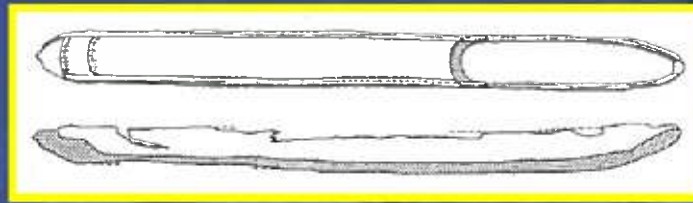


韓国出土例

長野県北部の 朝鮮半島製品は 上越～北陸経由で もたらされたもの



弥生時代後期に交易の広域化が達成された



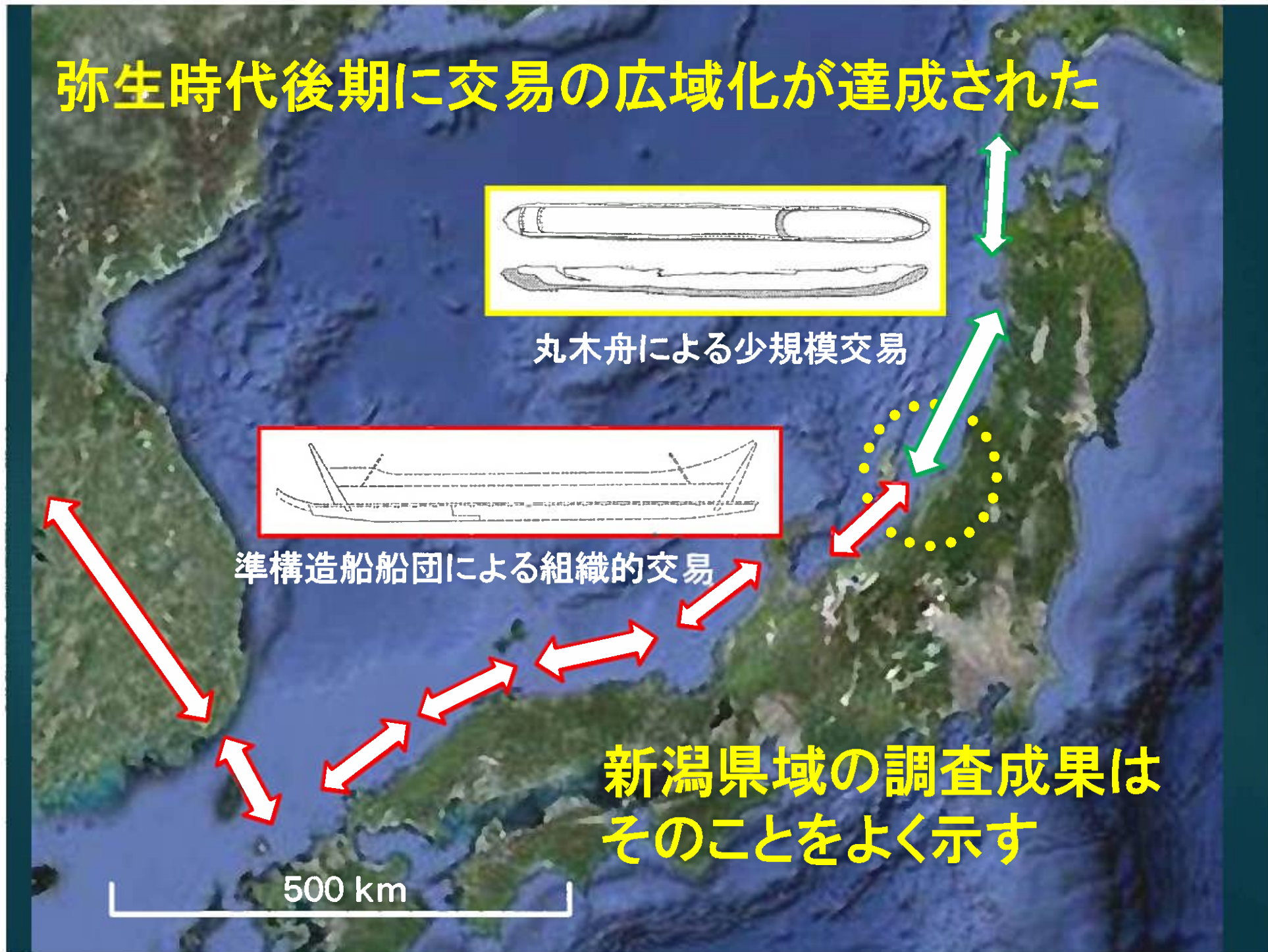
丸木舟による少規模交易

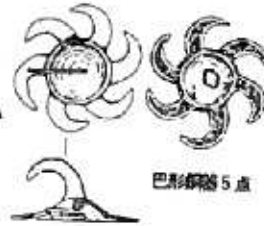
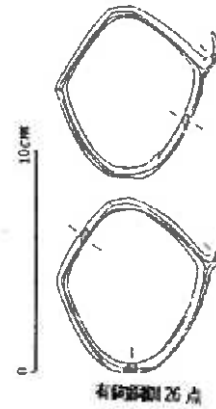


準構造船船団による組織的取引

新潟県域の調査成果は
そのことをよく示す

500 km





この他、硬玉勾玉3・管玉13、
ガラス管玉14・小玉約2400



AD1世紀
の漢鏡



ガラス小玉
約2400点

唐津市桜馬場遺跡
弥生後期初め
=AD1世紀には
漢王朝の最有力層
と交渉



素環鉄刀
=漢式大刀

この弥生時代後期は、
弥生社会の最上層部は
大陸の強大な国家機構
の中核と交渉を開始した



©福岡市博物館

金印出土地の位置

後漢書(四時)

倭人初の本格外交:「漢委奴國王」金印

直径 22.2cm

直径 15.4cm

有体鏡類 所産

巴形銅刀 5点

実用銅刀

この他、硬玉勾玉3・管玉13、ガラス管玉14・小玉約2000

佐賀県唐津市桜馬場遺跡豊棺に副葬された中国製銅鏡と素環頭鉄刀 (佐賀市報 2014)

ご清聴ありがとうございました。



写真：国史跡・新潟市古津八幡山遺跡

めいじろう
(明治大学のイメージキャラクター)